令和 2年 6月16日開催
第547回 理 事 会可決
第169回 評議員会承認

学校法人福岡学園　令和元年度事業報告の概要

１.「口腔医学の学問体系の確立・育成」について

戦略的大学連携支援事業「口腔医学の学問体系の確立と医学･歯学教育体制の再考」（文部科学省選定、助成期間平成 20 年～22 年を含む 10 年間継続）で蓄積した授業内容に基づいた歯科大学独自の「医歯学連携演習」を実施しました。

また、口腔医学の創設・育成を推進するため平成 27 年度に創設された「田中健藏基金」による第 4 回目の事業として、「田中健藏記念文庫」を創設し、新書 358 冊を購入しました。

２．教育の改善・充実等について

（１）平成 25 年度からの継続事業である「私立大学等改革総合支援事業」（文部科学省及び日本私立学校振興・共済事業団が共同実施）において、歯科大学は特色ある教授･学習方法の展開を通じた教育機能の強化が実践されている大学として、タイプ１「特色ある教育の展開」に採択されたほか、個々の大学が地域の経済･社会、雇用、文化の発展に寄与する取り組みが実践されている大学として、「福岡未来創造プラットフォーム」に参画する歯科大学がタイプ３の「地域社会への貢献」に採択されました。

（２）歯科大学、短期大学ともに平成 26 年度に採択され、最終年度を迎えた「大学教育再生加速プログラム（AP)」（文部科学省実施）について、歯科大学はアウトカム基盤型教育を推進し、取り組み成果をシンポジウム等で学内外に発信したほか、学修成果の評価の方針（アセスメント･ポリシー）に基づき、教育活動の検証･改善を実施しました。短期大学はアクティブ・ラーニングの促進、汎用的能力の可視化等への取り組み成果を外部評価委員会に報告し、外部委員からの意見をもとに、授業改善に繋げました。

（３）歯科大学では、「横断統合演習」をより広範囲の学力定着を図る目的で「総合学力試験」へ変更したほか、通年科目を前期完結科目、後期完結科目に分割し、教育効果を高める仕組みへ変更しました。また、共用試験について、「基礎臨床統合演習」の時間数を拡大したほか、高い意識で学習することを目的に、再試験の合格基準を本試験と同じ合格基準に引き上げることとしました。

（４）歯科大学大学院では、テーシス形式の論文の質の向上について検討を開始したほか、本学研修歯科医に臨床セミナーの実施や「大学院入学ガイド」の配布により大学院進学を推進しました。

（５）看護大学では、実践力が向上するような教育のつながりを検討するため、看護系全科目のシラバスに対して、シラバスチェック表を作成し、講師以上の教員で相互チェックを行いました。また、令和 3 年度の大学院開設に向け、看護大学紀要「看護と口腔医療」に論文 20 編を掲載するなど研究業績を積み上げ、文部科学省へ大学院設置認可申請書を提出しました。

（６）短期大学では、歯科衛生学科において、臨床･臨地実習を充実させるため、学内診療施設に加え、開業歯科医院での学外実習を開始しました。また、保健福祉学科において、医療的ケア教育の充実のため、実地研修評価に合格した 8 名に対し「喀痰吸引等研修修了証」を交付しました。専攻科では、23 名全員が大学改革支援･学位授与機構より学士の学位を取得しました。なお、保健福祉学科について、令和 2 年度以降の学生募集停止を文部科学省に届出しました。

（７）「第 113 回歯科医師国家試験」は、形成試験を導入し、基準点に達するまで何回も試験を行い、知識の定着促進を図ったほか、卒業試験･再試験問題のブラッシュアップ等様々な対策を講じ、新卒 44 名が合格しました。短期大学の「第 29 回歯科衛生士国家試験」は 51 名が合格し、「第 32 回介護福祉士国家試験」は 10 名全員が合格しました。

３．研究の活性化について

（１）平成 29 年度に歯科大学、短期大学ともに採択された「私立大学研究ブランディング事業」（文部科学省選定）において、研究成果発表会等を実施しました。なお、本事業は令和 3 年度までの事業計画でしたが、文部科学省からの通知により今年度をもって支援終了となりました。

（２）再生医学研究センターでは、「私立大学研究ブランディング事業」の組織再生チームとして、「幹細胞スフェロイドでの骨分化およびセメント質分化法の確立」の研究を実施したほか、実績として所属の大学院生 2 名が学位取得、学会報告 5 報、インパクトファクターのある英文雑誌に 5 報掲載しました。また、リサーチ･スチューデント（学部学生）が 1 名研究を行いました。
なお、本センターは、下述のセンターに統合され、令和 2 年 3 月に廃止となりました。

（３）10 月に「福岡歯科大学･福岡看護大学･福岡医療短期大学 口腔医学研究センター」を開設し、ブランディング強化を図るため、「常態系」、「病態系」、「再生系」、「臨床歯学系」、「医学系」の 5

つの口腔医学プラットフォームを構築、「口腔医学」のコンセプトに基づいた共通目標のもと、独自の先駆的研究や相互の連携研究への取り組みを開始しました。

（４）看護大学では、口腔ケアに特化した看護系書籍「看護で教える最新口腔ケア」を上梓しました。

（５）研究業績として、専任教員の総論文数（著書、総説、原著論文、症例報告等）は、歯科大学は、前年度 185 編が 127 編（うち欧文 71 編）に、看護大学は、前年度 67 編が 72 編（うち欧文 4 編）、短期大学は、前年度 14 編が 13 編（うち欧文 2 編）になりました。

４．学生の支援等について

（１）歯科大学では、低学年教育や CBT 試験等の学年固有の課題解決のため助言教員 FD を開催するとともに、今年度初めて保護者に対して助言教員等が大学の取り組みや修学状況等を説明する「学年説明会及び個別面談」を実施し、保護者より高い評価を得ました。

（２）看護大学では、チューター教員による定期面談、成績不振学生等には保護者を交えた三者面談を繰り返し実施して細かい学生指導を行ったほか、学生の就職への意識高揚のため、就職合同説明会を実施しました。また、実習準備室、売店を増築棟に移設し、空きスペースを看護実習室、学生ラウンジに変更して教育環境をより充実させました。

（３）短期大学では、実習の予習復習に活用できる e-learning 教材を蓄積し、学生の課外学修を支援したほか、就職へのモチベーションアップのため、開業歯科医院等に参加を依頼し、就職ガイダンスを開催しました。

（４）歯科大学、看護大学、短期大学が文部科学省の実施する高等教育の修学支援制度（高等教育の無償化）の対象校として選定されました。

（５）令和 2 年度入学者数は、歯科大学口腔歯学部 88 名、大学院 15 名、看護大学看護学部 107 名、短期大学歯科衛生学科 47 名、専攻科 23 名でした。

５．社会との連携・貢献について

（１）地域連携センターでは、公開講座、出前講座、地域カフェ、生涯研修等を開催したほか、「福岡未来創造プラットフォーム」において、野芥校区子ども食堂事業への学生の派遣、リカレント教育プログラム「子どもの貧困を科学する」の企画実施などに参画しました。

（２）医科歯科総合病院では、医科 23 科、歯科 4 科、訪問歯科センター及び内視鏡センター等が協働で地域医療の充実に貢献するとともに、摂食嚥下･言語センター（ことばと飲み込みのケアセンター）を設置し、医科･歯科が連携して専門的医療を開始しました。外来患者数は 1 日平均 759.8 人、入院患者数は 30.1 人でした。

（３）口腔医療センターは、臨床研修歯科医、臨床実習生等を受け入れ、実習・研修施設としての役割を果たすとともに、歯科大学、センター主催の生涯研修等を開催しました。年間患者数は 28,505 人、1 日平均患者数は 111.1 人でした。

（４）介護老人保健施設は、教育施設として介護福祉実習、口腔介護実習等で延べ 1,207 人の実習生を受け入れました。入所者数は 1 日平均 76.1 人、通所利用者数は 1 日平均 27.3 人となりました。なお、特定処遇改善手当を新設し、介護職員の処遇改善を行いました。

（５）新病院建替えについては、平成 31 年 1 月の起工式から本工事を開始するとともに、令和 2 年 9 月の開院に向け、設備等に関するヒアリングの実施、医療機器及び什器備品等の現況調査、更新精査を行ったほか、医療情報システムに関する WG 等による検討を行いました。

（６）国際交流については、歯科大学は、リバプール大学(イギリス)と相互交流を実施したほか、ブリティッシュコロンビア大学(カナダ)とは再度協定を締結し、今後の相互交流内容を確認しました。また、中国、韓国の各協定大学からの受け入れを継続実施しました。

看護大学は、リバプール大学との協定締結に向け協議を行い、令和 2 年後期以降での派遣を実施する予定にしています。

６．組織運営及び財務強化･施設整備について

（１）病院の将来的な構想を踏まえ、訪問歯科センターを総合歯科学講座の 1 分野として教員を配置しました。

（２）外部資金導入として、文部科学省から研究ブランディング事業、改革総合支援事業選定などに係る補助金として約 9,120 万円を受け入れました。

（３）内部質保証の方針、体制及び手続きを福岡歯科大学の各種方針等として制定しました。

（４）令和 2 年 4 月から施行される私立学校法の改正に対応するため、役員の責任の明確化、監事機能の強化等を盛り込んだ寄附行為の変更申請を行い、文部科学省より認可されました。

令和 2年 6月16日開催
第547回 理 事 会可決
第169回 評議員会承認

学校法人福岡学園　令和元年度事業報告書

Ⅰ．法人の概要

法人の名称：学校法人福岡学園
住所：〒814-0193 福岡県福岡市早良区田村二丁目 15 番 1 号
電話：092－801－0411
URL：http://www.fdcnet.ac.jp/fdc/

１．法人の目的

学校法人福岡学園は、昭和 48 年に西日本唯一の私立歯科大学として「福岡歯科大学」を開設し、現在、口腔医学の学問体系の確立・育成と全身の疾患が理解できる医療人の育成に向けて、特色ある教育研究を行っている。平成 25 年 4 月からは、口腔医学に関する活動をアピールするとともに、歯学教育や歯科医療の実態に即したものとするため、学部学科の名称を「口腔歯学部・口腔歯学科」に変更した。また、地域の医療センターとしての「医科歯科総合病院」のほか、臨床実習の拡充や地域歯科医療の向上等を目的としたサテライト施設「口腔医療センター」を博多駅前に有する。この他、全国初の「口腔保健学士」認定専攻科を持つ「福岡医療短期大学(歯科衛生学科・保健福祉学科)」、全国に先駆けて設置した高齢者福祉のための「介護老人保健施設 サンシャインシティ」を併設している。さらに、平成 29 年 4 月に「福岡看護大学」を開学させたほか、女性の就業環境整備のため、同年 8 月にぺんぎん保育園を開設。このように、本学園は、一貫して教養と良識を備えた有能な歯科医師、看護師、保健師、歯科衛生士、介護福祉士の養成及び教育・研究者の育成に努め、医療・保健・福祉の総合学園として、教育・研究の質の向上及び地域医療・福祉への貢献を目指している。

【建学の精神】

福岡歯科大学：教育基本法及び学校教育法に基づき、歯学に関する専門の学術を教授研究し、教養と良識を備えた有能な歯科医師を育成することを目的とし、社会福祉に貢献すると共に歯科医学の進展に寄与することを使命とする。

福岡看護大学：教育基本法及び学校教育法に基づき、看護学に関する専門の学術を教授研究し、教養と良識を備えた有能な看護専門職を育成することを目的とし、社会福祉に貢献するとともに、看護学の進展に寄与することを使命とする。

福岡医療短期大学：歯科衛生士に必要な専門の知識と技術を教授研究し、教養と良識を備え、口腔医学に基づいた歯科医療を実践できる有能な人材を育成するとともに、もって医療、保健、福祉に寄与することを目的とする。

２．沿革

昭和47年 7月	学校法人福岡歯科学園寄附行為認可、福岡歯科大学設置認可
昭和48年 2月	福岡歯科大学附属病院開設
昭和48年 4月	福岡歯科大学開学
昭和55年11月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校設置認可
昭和56年 4月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校開校
昭和60年 3月	福岡歯科大学大学院設置認可
昭和60年 4月	福岡歯科大学大学院開学

平成 8年10月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校の福岡医療福祉専門学校への校名変更及び同校の社会福祉専門課程設置認可
平成 8年12月	福岡医療短期大学設置認可
平成 9年 3月	福岡医療福祉専門学校歯科衛生専門課程募集停止
平成 9年 4月	福岡医療短期大学開学、福岡医療福祉専門学校開校
平成11年 2月	福岡医療福祉専門学校歯科衛生専門課程廃止認可
平成11年 4月	福岡医療短期大学専攻科歯科衛生学専攻開設
平成11年12月	福岡医療短期大学保健福祉学科設置認可
平成12年 1月	福岡医療福祉専門学校社会福祉専門課程募集停止
平成12年 4月	福岡医療短期大学保健福祉学科開設
平成14年 1月	福岡医療福祉専門学校廃止認可
平成14年 8月	介護老人保健施設（サンシャイン シティ）開設
平成15年 4月	福岡医療短期大学歯科衛生学科3年制へ移行
平成16年 7月	人事考課制度導入
平成17年 1月	病院名を福岡歯科大学医科歯科総合病院に改称
平成17年 4月	教員の任期制導入
平成20年 4月	福岡医療短期大学歯科衛生学科の専攻科が大学評価・学位授与機構の認可を得て、学士（口腔保健学）の専攻科として認定
平成23年 6月	法人名を福岡学園に変更認可
平成23年11月	福岡歯科大学口腔医療センター開設認可
平成23年12月	福岡歯科大学口腔医療センターを開設
平成25年 4月	福岡歯科大学の学部・学科名を口腔歯学部口腔歯学科に変更
平成28年 8月	福岡看護大学設置認可
平成29年 4月	福岡看護大学開学
平成29年 8月	ぺんぎん保育園開園
平成31年 1月	新病院建替え工事着工
平成31年 3月	福岡医療短期大学保健福祉学科令和2年度から学生募集停止決定
令和元年 9月	福岡歯科大学収容定員変更認可（令和2年度から入学定員96名）

３．設置する学校・学部・学科等、その入学定員、学生数等の状況

（表１）　（令和元年５月１日現在）

学　校　名	学部学科等名	開設年度	修業年限(年)	入学定員(人)	収容定員(人)	在学者数(人)
福岡歯科大学 (学長　髙橋　裕)	口腔歯学部 口腔歯学科	昭和４８年	6	120	720	592
	大学院歯学研究科	昭和６０年	4	18	72	39
福岡看護大学 (学長　窪田　惠子)	看護学部 看護学科	平成２９年	4	100	300	333
福岡医療短期大学 (学長　北村　憲司)	歯科衛生学科	平成　９年	3	80	240	193
	保健福祉学科	平成１２年	2	40	80	18
	計			120	320	211
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	平成１１年	1	20	20	24

施　設　名	区　分	開設年度	定員(人)	1日当り利用平均(人)	年間利用延数(人)
介護老人保健施設 サンシャインシティ (施設長　中島興志行)	入　所	平成 14 年	85	76.1	27,851
	通　所	平成 14 年	40	27.3	7,937

４．出願者、入学者及び収容定員充足率等の状況

（表２）

学　校　名	学部学科等名	令和元年度入学者				令和２年度入学者			
		出願者	受験者	合格者	入学者	出願者	受験者	合格者	入学者
福岡歯科大学	口腔歯学部 口腔歯学科	238	220	178	85	218	199	169	88
	大学院歯学研究科	4	4	4	4	16	16	16	15
福岡看護大学	看護学部 看護学科	426	418	221	109	399	392	208	107
福岡医療短期大学	歯科衛生学科	60	60	60	56	49	48	48	47
	保健福祉学科	6	6	6	6	-	-	-	-
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	40	39	27	24	49	49	25	23

（表３）　（毎年度５月１日現在）

学　校　名	学部学科等名	年度別収容定員充足率				
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
福岡歯科大学	口腔歯学部 口腔歯学科	0.8	0.8	0.9	0.9	0.8
	大学院歯学研究科	0.6	0.6	0.7	0.6	0.5
福岡看護大学	看護学部 看護学科	—	—	1.2	1.2	1.1
福岡医療短期大学	歯科衛生学科	1.1	1.1	0.9	0.8	0.8
	保健福祉学科	0.6	0.5	0.4	0.4	0.2
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	1.0	1.0	1.1	1.6	1.2

５．教職員数

（表４）　教　員　数　（令和元年５月１日現在）

	教授等	准教授	講師	助教	助手	小計	客員教授	客員准教授	臨床教授	臨床准教授	非常勤講師	合計
歯科大学	42	17	38	61	0	158	12	1	22	8	55	256
看護大学	13	5	7	5	10	40	—	—	—	—	7	47
短期大学	7	1	6	4	0	18	—	—	—	—	23	41
老　健	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	1
合　計	63	23	51	70	10	217	12	1	22	8	85	345

（表５）　　職　員　数　　（令和元年５月１日現在）

	事務職員	技術職員	技能職員	補助職員等	医療職員	介護職員等	医員	合計
歯科大学	53	5	4	27	—	—	—	89
看護大学	10	—	—	2	—	—	—	12
短期大学	6	—	—	1	—	—	—	7
病　院	12	—	—	2	108	—	55	177
口腔医療センター	6	—	—	—	12	—	3	21
老　健	3	—	—	1	19	45	—	68
合　計	90	5	4	33	139	45	58	374

※非常勤職員を含む。

６．役員・評議員・役職教職員

（令和元年５月１日現在）

（表６）　理事（定数 10～17 人）・監事（定数 2～4 人）・顧問

役職名	氏名	就任年月日	常勤･非常勤の別
理 事 長	水　田　祥　代	平成 22 年 6 月 3 日	常勤
常務理事	石　川　博　之	平成 27 年 2 月 1 日	常勤
理　　事	髙　橋　　裕	平成 30 年 2 月 1 日	常勤
理　　事	窪　田　惠　子	平成 29 年 4 月 1 日	常勤
理　　事	北　村　憲　司	平成 21 年 2 月 1 日	常勤
理　　事	多　田　昭　重	平成 26 年 8 月 3 日	非常勤
理　　事	瓦　林　達比古	平成 27 年 10 月 1 日	非常勤
理　　事	宮　口　　嚴	平成 17 年 8 月 3 日	非常勤
理　　事	井　手　孝　行	平成 27 年 5 月 1 日	常勤
理　　事	阿　南　　壽	平成 31 年 4 月 1 日	常勤
理　　事	古谷野　　潔	平成 26 年 8 月 3 日	非常勤
理　　事	熊　澤　榮　三	平成 29 年 8 月 3 日	非常勤
理　　事	海老井　悦　子	平成 27 年 12 月 1 日	非常勤
監　　事	藤　田　和　子	平成 29 年 4 月 1 日	非常勤
監　　事	西　方　和　久	平成 25 年 1 月 1 日	非常勤
顧　　問	木　下　　明	平成 31 年 4 月 1 日	非常勤
学事顧問	松　本　裕　子	平成 29 年 4 月 1 日	常勤

（表７）　評議員（定数 24～35 人）

役職名	氏名	就任年月日
評 議 員	水　田　祥　代	平成 22 年 6 月 3 日
評 議 員	髙　橋　　裕	平成 17 年 8 月 3 日
評 議 員	窪　田　惠　子	平成 29 年 4 月 1 日
評 議 員	北　村　憲　司	平成 21 年 2 月 1 日
評 議 員	阿　南　　壽	平成 31 年 4 月 1 日
評 議 員	井　手　孝　行	平成 27 年 5 月 1 日
評 議 員	石　橋　慶　憲	平成 21 年 6 月 26 日
評 議 員	本　山　久美子	平成 19 年 4 月 20 日

評 議 員	香 月 俊 博	平成 14 年 6 月 18 日
評 議 員	石 川 博 之	平成 27 年 2 月 1 日
評 議 員	城 戸 寛 史	平成 31 年 4 月 1 日
評 議 員	川 野 庸 一	平成 30 年 4 月 1 日
評 議 員	樋 口 勝 規	平成 28 年 7 月 19 日
評 議 員	平 田 雅 人	平成 30 年 2 月 1 日
評 議 員	朔 啓二郎	平成 17 年 8 月 3 日
評 議 員	古谷野 潔	平成 26 年 8 月 3 日
評 議 員	多 田 昭 重	平成 26 年 8 月 3 日
評 議 員	瓦 林 達比古	平成 27 年 10 月 1 日
評 議 員	海老井 悦 子	平成 27 年 12 月 1 日
評 議 員	熊 澤 榮 三	平成 23 年 4 月 19 日
評 議 員	前 原 喜 彦	平成 17 年 8 月 3 日
評 議 員	松 田 峻一良	平成 22 年 6 月 3 日
評 議 員	田 口 智 章	平成 29 年 8 月 3 日
評 議 員	樗 木 晶 子	平成 29 年 8 月 3 日
評 議 員	神 田 晋 爾	平成 29 年 8 月 3 日
評 議 員	宮 口 嚴	平成 11 年 8 月 3 日
評 議 員	武 井 俊 哉	平成 11 年 8 月 3 日
評 議 員	髙 嶺 明 彦	平成 27 年 4 月 21 日

（表８） 役職教職員

役職名	氏名
歯 科 大 学 長	髙 橋 裕
看 護 大 学 長	窪 田 惠 子
短 大 学 長	北 村 憲 司
医科歯科総合病院長	阿 南 壽
医科歯科総合病院副病院長	城 戸 寛 史
医科歯科総合病院副病院長	川 野 庸 一
医科歯科総合病院副病院長	樋 口 勝 規
事 務 局 長	井 手 孝 行
歯 科 大 学 生 部 長	稲 井 哲一朗
歯科大情報図書館長	廣 藤 卓 雄
口腔・歯学部門長	尾 崎 正 雄
全身管理・医歯学部門長	湯 浅 賢 治
社会医歯学部門長	埴 岡 隆
基礎医歯学部門長	日 髙 真 純
看 護 大 学 部 長	飯 野 英 親
看 護 大 学 生 部 長	大久保 つや子
看護大情報図書館長	岡 田 賢 司
基礎・基礎看護部門長	嶋 田 香
健康支援看護部門長	岩 本 利 恵
地域・在宅看護部門長	宮 園 真 美

Ⅱ．事業の概要

１．教育の改善・充実

１）口腔医学の確立・育成

歯科大学では、“口腔”を身体の一つの臓器と位置づけ、現在の歯学教育の高度専門化とともに一般医学教育を充実させた「口腔医学」を確立・育成することが、超高齢社会を支える歯科医学・歯科医療にとって非常に重要であるとの考えから、「歯学から口腔医学へ」をモットーに、口腔医学教育・口腔医療の確立・育成のフロントランナーとして、その実践に努めてきた。

平成 20 年度文部科学省選定の戦略的大学連携支援事業『口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考』（助成期間：平成 20 年 11 月 20 日から 22 年度まで）については、助成期間を含めた 10 年間の事業は終了したが、今年度については連携事業で蓄積した授業内容に基づいた歯科大学独自の「医歯学連携演習」を実施した。

平成 29 年度に文部科学省の私立大学研究ブランディング事業の支援校として、歯科大学及び短期大学がともに選定され、「口腔医学」を大学近郊の高齢化の進む地域に展開し、口腔機能の維持・向上によって認知機能の維持を図り、要介護化の阻止、誤嚥性肺炎の予防及び高い QOL の達成を事業目標に継続実施した。

また、口腔医学を推進させるために平成 27 年度に創設された「田中健藏基金」による第 4 回目の事業として、「田中健藏記念文庫」を創設し、新書 358 冊を購入した。

２）「私立大学等改革総合支援事業」に採択

平成 25 年度から文部科学省及び日本私立学校振興・共済事業団が共同で実施する継続事業で、教育の質的転換や、産業界・他大学との連携、地域におけるプラットフォームの形成による資源の集中化・共有など、特色化・機能強化に向けた改革に全学的・組織的に取り組む大学等を重点的に支援する事業である。

（１）タイプ１「特色ある教育の展開」に採択

全学的に教育の質向上に向けた特色ある教授・学習方法の展開を通じた教育機能の強化が実践されている大学として、タイプ 1 の「特色ある教育の展開」に歯科大学が採択された。

（２）タイプ３「地域社会への貢献」に採択

大学間、自治体・産業界等との連携を進めるためのプラットフォーム形成を通じた大学改革を推進する取り組み及び地域と連携した教育課程の編成や地域の課題解決に向けた研究の推進など、個々の大学が地域の経済・社会、雇用、文化の発展に寄与する取り組みが実践されている大学として、「福岡未来創造プラットフォーム」に参画する福岡歯科大学がタイプ 3 の「地域社会への貢献」に採択された。

３）「大学教育再生加速プログラム（AP）」の継続実施

平成 26 年度より 5 年計画で文部科学省が実施する事業で、教育再生実行会議等で示された新たな方向性に合致した先進的な取り組みを実施する大学等に支援される。平成 28 年度には、歯科大学、短期大学ともに 1 年延長が許可され、6 年間の継続事業となり、最終年度としての取り組みを実施した。本事業で得られた知見を活かした教育改善活動は継続して実施する。

（１）福岡歯科大学

テーマⅡ「学修成果の可視化」の取り組みを発展させ、平成 26 年 10 月に設置した教育支援・教学ＩＲ室を中心に、3 つのポリシー及びコンピテンス・コンピテンシーに基づくアウトカム基盤型教育を推進し、収集・蓄積したデータを分析・可視化するなど、修学支援に活かす取り組みを実施するとともに、学外のシンポジウム等において成果を発表するなど、取り組み成果の学内外への発信を行った。また、平成 30 年度に策定した学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）に基づき教育活動の検証・改善を実施した。

（２）福岡医療短期大学

テーマⅠ・Ⅱ複合型「アクティブ・ラーニングと学修成果の可視化」の取り組み（体系的な SD・FD 活動の推進、課外学修時間の増加やアクティブ・ラーニングの促進、汎用的能力の可視化（6 種類のルーブリック評価や学修成果アセスメントテスト、IR 学生調査、学修ポートフォリオ））について経年結果等事業成果を報告書に取り纏めるとともに、外部評価委員会に報告し、外部評価委員の意見をもとに、授業改善に繋げた。

４）歯科大学口腔歯学部の教育

（１）口腔医学教育の実践

① 口腔医学カリキュラム確立の推進

昨年まで連携大学と共同実施していた「医歯学連携演習」は連携事業の終了に伴い今年度は本学単独の授業科目として開講し、引き続き一般医学科目とともに口腔医学教育カリキュラムを実践した。

② 学外研修の充実

九州大学との連携事業として、受け入れ及び

派遣を行い、後期に九州大学歯学部学生 24 名を高齢者歯科学分野に受け入れ、本学学生 10 名を九州大学病院に派遣した。

（2）創造力を持った人材の育成

① 自学自習システム等の充実

形成的評価を目的とした試験を e-learning システムで実施するなど、ICT を利活用した教育システムを充実させた。

② リメディアル教育の充実

AO 入試Ⅰ期及び推薦・指定校推薦入試合格者に対する入学前教育について、入学前に 3 回の勉強合宿とテストを実施し、入学前 3 月の学力テスト結果を踏まえ、基準点に満たない科目を有する者には、4 月当初に補講を実施した。

③ 介護実習の実施

第 1 学年後期の介護施設実習、第 3 学年後期の介護実習、第 5 学年前期の介護施設での臨床実習を引き続き実施した。

④ 低学年の態度教育

欠席過多者を早期に発見し、助言教員等を通じて積極的な学習参加を引き続き促した。

（3）教育の充実・改善への新たな取り組み

① カリキュラムの改変

ディプロマ･ポリシー、カリキュラム･ポリシーに基づいたアウトカム基盤型教育を展開するため、カリキュラムの見直しを行い、前年度まで実施していた「横断統合演習」をより広範囲の学力定着を図る目的で「総合学力試験」へ変更した。

また、教育効果を高めることを目的に、通年科目を前期完結科目、後期完結科目に分割し、半期の授業内容を追･再試験時にしっかりと振り返ることで、十分な知識の定着を図る仕組みへ変更した。

② 共用試験への取り組み

第 4 学年は、臨床実習に向けて 4 年間で学んだ知識を統合するための大事な時期で十分な基礎学力をつけることが必要であるとの観点から、共用試験受験を踏まえた実践的な授業科目である「基礎臨床統合演習」の時間数を拡大した。

共用試験には、第 4 学年 99 名が受験し、CBT に関しては 73 名が、OSCE については全員が合格した。

また、卒業試験同様、共用試験においても高い意識で学習を行うことを目的に再試験の合格基準を本試験と同じ合格基準へ引き上げた。

５）歯科大学大学院の教育

（1）教育の可視化・実質化等

研究科運営委員会にて授業内容の確認を行い、令和２年度選択必修科目の内容及び担当者を変更する等、授業を一部再編した。

また、テーシス形式の論文の質の向上について、研究科運営委員会にて検討を開始した。

（2）高度な研究能力と豊かな国際感覚の涵養

令和元年度は大学院 4 学年 10 名が学位を取得、論文博士 1 名を認定した。

また、再生医学研究センターでは大学院生 11 名が研究活動を行い、海外の学術雑誌への論文発表増加に向けて研究指導を行った。

（3）修学支援体制の充実化

奨学制度においては特別奨学生 2 名、一般奨学生 10 名、リサーチアシスタント 10 名、ティーチングアシスタント 10 名を選考した。

また、第二種特待生を 4 名選考し、規程・細則に基づく運用を行った。

（4）口腔医学を基盤とした知的人材養成

口腔医学に沿って総合医学基本テーマを充実させるため、引き続き医科科目の講義・実習を必修科目として開講し、医科疾患の診断・治療の臨床演習を実施した。

（5）定員確保への取り組み

令和元年度は 4 名（定員 18 名）が入学した。本学研修歯科医に大学院入学を促すため、「大学院でリサーチマインドを磨こう」と題し臨床セミナーを行った。

また、本学研修歯科医に「大学院入学ガイド」を配布し、本学大学院への進学を促進した。

６）看護大学看護学部の教育

（1）高度な看護実践能力の育成

分野間で教育内容、シラバス、評価基準等について協議した。講義・演習・実習を連動させた教育を展開するための FD を実施して教育の一貫性と教授内容の質の向上に取り組んだ。また、シラバスチェック表を作成し、看護系全科目のシラバスに対して、講師以上の教員で相互チェックを行い、実践力が向上するような教育のつながりを検討した。

昨年度と同様に、学習の自己評価・振り返りを各演習科目で実施したほか、模擬実習型シミュレーション演習も実施し、講義･演習･実習を関連付けて発展的に学修できる能力の育成を支援した。

（2）実習体制の整備

大学と実習施設の合意に基づいた実習体制を構築するために、「実習小委員会」、「実習協議会」、「実習指導者会議」を定期的に開催し、教育に関する共通の理解を深め、実習の運用がスムーズに運ぶように努めた。また、一定の教育水準を確保し、実習の目的・目標を達成するため、実習施設と個別の協議を行い、臨地実習指導者と連携して教育活動を実施した。看護系の各論実習終了後は、その教育成果を臨床にフ

ィードバックする報告会を実施し、課題解決に向けた協議を行い、今後も臨床実習を継続してもらえるよう取り組んだ。

次年度以降の母性看護学の臨地実習において、男子学生のローテーションが困難であることを予測して、学生受け入れ週数を増やしてもらえるように協議を続けた。

また、新型コロナウイルスの流行に伴い、実習時の学生の発熱・体調不良事態における対応フローチャートを作成して運用した。

（３）福岡看護大学大学院開設の準備

令和３年度開設に向け、大学院看護学研究科設置準備委員会を中心に申請書類等を取りまとめ、令和２年３月に文部科学省へ大学院設置認可申請書を提出した。本年度は教員審査合格に必要な研究業績を積み上げるため、部門長を中心に看護研究を推進し、看護大学紀要「看護と口腔医療（Japanese Journal of Nursing and Oral Health Care)」に論文 20 編を掲載した。

７）医療短大の教育

（１）高度かつ実践的教育

令和元年度から福岡歯科大学医科歯科総合病院、口腔医療センターに加え、福岡市内の開業歯科医院での学外実習を開始し、臨床・臨地実習を充実させた。

（２）専門分野のエキスパート養成

歯科衛生学科においては、臨床実習の充実のほか、介護職員初任者研修の資格取得のための講義、実習を行い、32 名が資格を取得した。また、令和２年度入学者から介護職員初任者研修を介護福祉士実務者研修に切り換え、講義、実習を行うことを決定した。

保健福祉学科においては、「医療的ケア」教育を充実し、実地研修評価に合格した２年次生８名に対し“喀痰吸引等研修修了証”を交付した。

専攻科においては、特例適用対象専攻科生 20 名が、専攻研究成果の要旨、成績評価の結果を大学改革支援・学位授与機構へ報告し、学士を取得した。特例適用対象外の専攻科生 3 名については、大学改革支援・学位授与機構に論文を送付し、同機構の筆記試験を受けて合格し、学士を取得した。

（３）将来像の検討

歯科衛生学科では、大学院に通う教員（1 名修了、1 名継続中）の学修支援を、助手の採用（R1.10～R2.3）等を通して継続し、教員の質の向上に努めた。

（４）保健福祉学科の学生募集停止

令和２年度以降の学生募集停止について、在校生、保護者、同窓会等への説明・周知を行った。また、ホームページ上での情報開示等を行うとともに、文部科学省等への必要な届出を行った。

８）教育の質の向上

（１）福岡歯科大学

学生支援の充実に関する FD(3 回)、教員の資質向上に関する FD(4 回)、大学院及び研究の活性化に関する FD(4 回)、学修成果の可視化に関する FD・SD(7 回)を開催した。また、教員間の授業見学を平成 29 年度から引き続き実施したことに加えて、令和元年度は職員による授業見学を試行した。

その他、FD 関連事業として、助言教員制度を充実させるためのワークショップを開催する等、教員の教育力向上に努めた。

（２）福岡看護大学

FD 委員会で企画し、本学の教育理念の理解と、理念に基づく教育研究が展開できるように、FD 研修を 5 回開催した。内訳は、1)教員の資質向上を目指した FD 研修 2 回、2)カリキュラム・シラバスを通して教育の質の向上を目指した FD 研修 2 回、3)研究能力の向上を目指した FD 研修 1 回であった。その中で、3 つのポリシーを踏まえ、各看護分野での講義-演習-実習を連動させた教育と評価についての FD 研修は、看護分野での教育の一貫性、教育の重複・不足内容、シラバス、実習要項を見直す契機となり、教育改善に役立った。

（３）福岡医療短期大学

大学全体の教育改革がさらに加速することを目的に、教育・厚生指導・研究・管理運営という 4 つの枠組みによる体系的な FD・SD を実施（計 12 回）し、教育能力・教育の質等の向上に繋がったことが教員へのアンケート調査により確認できた。歯科衛生学科では、「アセスメント・ポリシー」に基づき、各授業科目の一般目標とディプロマ・ポリシーの関連性を検討し、令和２年度のシラバスに反映させた。

（４）最優秀教育改善賞

福岡歯科大学及び福岡医療短期大学では、教員の意欲向上並びに教育の質向上及び改善を図ることを目的に制定した「最優秀教育改善賞要項」に基づき、令和元年度についても教育活動において顕著な成果を挙げ、他の教員の模範となる教員を選出した。

９）国家試験

（１）福岡歯科大学

昨年実施した卒業試験の実施時期の前倒しを今年度も踏襲し、早期学修の定着を図った。

歯科医師国家試験合格に向けて、形成試験を導入し、基準点に達するまで何回も試験を行い知識の定着促進を図った。また、予備校模擬試

験・予備校講義の実施及び卒業試験・再試験問題のブラッシュアップ等様々な対策を講じた。国家試験の模擬試験結果について、全国の正答率と乖離がある問題を全教科打合せの会議で講師以上の教員へフィードバックし、第6学年の指導に活用した。

第113回国家試験には、88名が受験し、44名が合格した。

（２）福岡看護大学

国家試験対策学習を目的にグループ学習会を1～3学年でそれぞれ実施し、第１学年は学生自身で解剖・生理学オリジナルテキストを完成させ、第2学年は対策ノートを1年次に引き続き作成した。第3学年では、積極的かつ自主的なグループ学習会が運営された。また、模擬試験を各学年2回実施し、成績低迷者には個別指導や再試験（1～3年）、また学習会（3年）を実施した。いずれの結果も、担当教員にフィードバックし、学生への指導を行った。

（３）福岡医療短期大学

歯科衛生学科は、卒業試験・国家試験受験者全員の合格を目指して、対策授業である口腔保健テーマ別講義の各領域別時間数を見直し実施した。卒業試験不合格者 15 名に対し再試験に向けて教員に加え専攻科生（TA）による学力の底上げを図ったが、5 名が再試験不合格となった。国家試験受験予定者のうち成績不振者に対しては、国家試験までの期間、更なる学力向上へ向けて個別指導等の学修支援を行ったが、第 29 回歯科衛生士国家試験は、52 名が受験、51 名が合格し、合格率 98.1%（全国平均合格率 94.3%）であった。

保健福祉学科は、国家試験対策として模擬試験を 2 回受験させ、課外学修支援を実施した結果、第 32 回介護福祉士国家試験は、受験者 10 名全員が合格し、合格率 100%（全国平均 69.9%）であった。

２．研究の活性化

１）研究の質の向上

（１）研究マネジメント体制の整備等

福岡歯科大学・福岡看護大学・福岡医療短期大学における研究活性化の一環として、専任教員及び医員等を対象に、研究（研修）テーマの取り組み・進捗状況をまとめ、所属長を経て理事長に提出させ、理事長はこの報告書をもとに学長とともに教授（医科系は助教以上）面談を行い、計画的な研究の実施に向けて指導を行った。

また、教育研究経費等として、福岡歯科大学には学長重点配分経費 10,000 千円、病院長重点配分経費 5,000 千円、学術振興基金事業経費 18,600 千円を、福岡看護大学には学長重点配分経費 2,000 千円、共同研究費 3,000 千円を、福岡医療短期大学には学長重点配分経費 1,000 千円、共同研究費 500 千円を配分した。

令和元年度の研究業績は、福岡歯科大学専任教員の総論文数（著書、総説、原著論文、症例報告等）は 127 編（前年度 185 編）、うち欧文は 71 編であった。

福岡看護大学の専任教員の総論文数（著書、総説、原著論文等）は 72 編（前年度 67 編）、うち欧文は 4 編であった。

福岡医療短期大学専任教員の総論文数（著書、原著論文等）は 13 編（前年度 14 編）、うち欧文は 2 編であった。**（別表 1）**

２）研究ブランドの確立

（１）私立大学研究ブランディング事業

学長のリーダーシップの下、大学の特色ある研究を基軸として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学・私立短期大学に対し、経常費・設備費・施設費を一体として重点的に支援する事業である。

① 福岡歯科大学

平成 29 年度に「高齢者ヘルスプロモーションと地域包括ケアへの口腔医学の展開～要介護化防止と誤嚥性肺炎ゼロを目指して～」の事業名で採択され、今年度は、同事業の柱である 3 つの研究チームによって、事業計画に沿って研究を進展させた。また、12 月には福岡歯科大学学会総会において、研究成果発表会を実施した。なお、当初令和 3 年度までの事業計画であったが、文部科学省からの通知により、今年度をもって支援終了となった。

② 福岡医療短期大学

平成 29 年度に採択された同事業「口腔機能向上でイキイキ長寿社会の実現－話そう・食べよう・いつまでも－」の事業活動の一環として、研究成果報告会、公開講座を各 1 回開催したほか、複数学会において事業の広報活動を行った。なお、当初令和 3 年度までの事業計画であったが、文部科学省からの通知により、今年度をもって支援終了となった。

（２）福岡看護大学

大学の研究ブランドの確立を目指して、看護学・口腔医学共同研究準備委員会を中心組織として「看護分野における口腔ケア・口腔ケア教育」に関する臨床看護研究を継続的に推進した。

成果の一部は、論文として昨年に引き続き欧米雑誌等に掲載された。また、日本で最大規模

の日本看護科学学会で、口腔ケアの看護研究の展開に関する交流集会が、昨年に引き続き 2 年連続で採択され、共同研究を可能にするネットワークの基盤作りに努めた。また、令和 2 年 3 月に口腔ケアに特化した看護系書籍「看護で教える最新口腔ケア」(A4 判全 306 頁) を上梓した。

科学研究費助成事業(日本学術振興会)では、口腔ケア関連テーマで 6 件の新規採択を獲得し、研究ブランドを推進させた。

3)「学生研究支援プログラム」の実施

歯科大学では、リサーチ・スチューデントとして低学年を中心に 6 名が採用され、勉学の傍ら研究にも従事し、研究マインドの醸成を図った。

4) 再生医学研究センター

専任教員を中心とした多数の研究者が組織再生療法の実践に向けて研究を進めている。今年度の具体的な研究内容は、1) 歯周組織再生療法の確立および分化誘導の工夫[(1)スフェロイド培養法による骨分化誘導の促進、(2)骨分化誘導へのオートファジーの役割、(3)脱分化脂肪細胞 (DFAT) を用いた骨分化誘導法、(4)セメント質誘導の確立、(5)多細胞から構成される組織化スフェロイドの開発、(6) Scaffold 材料の開発]、2) 歯周組織の加齢および細菌感染への対応、3) 歯根形成への抗がん剤への影響および4) 幹細胞におけるオートファジーの役割である。また、文部科学省私立大学研究ブランディング事業の“組織再生チーム”として、令和元年度計画「幹細胞スフェロイドでの骨分化およびセメント質分化法の確立」の研究を進めた。

令和元年度の成果としては、センターに所属した2名の大学院生が学位を取得した。学会報告としては、所属大学院生を中心として国内外で5報の発表を行った。また、論文はインパクトファクターのある英文雑誌に5報掲載された。さらに、今年度は1名のリサーチ・スチューデント (学部学生) がセンターで研究を行った。これらの成果は、大学院生及び学部学生の研究中核機関としての役割を果たしているものと考える。

なお、本センターは、「福岡歯科大学･福岡看護大学･福岡医療短期大学口腔医学研究センター」に統合され、令和2年3月に廃止した。

5) 口腔医学研究センター

令和元年 6 月より、開設準備に入り都合 5 回の準備委員会を経て、10 月 1 日に「福岡歯科大学・福岡看護大学・福岡医療短期大学 口腔医学研究センター」が開設された。本センターでは、これまでの先進的かつ独自性の高い研究活動を一層推進・拡充し、ブランディング強化を図るため、「常態系」、「病態系」、「再生系」、「臨床歯学系」、「医学系」の 5 つの口腔医学プラットホーム (PF) を構築した。学園 3 大学から 32 名の研究者を選抜し、それぞれを適切な PF に配した。各 PF では口腔の健康は全身の健康を守るという「口腔医学」のコンセプトに基づいた共通目標のもと、独自の先駆的研究に取り組むとともに相互の連携研究にも取り組む。その結果として、本学園からの取り組みとして国内外から認知される成果を発表することを目標として活動を開始した。

12 月 19 日には福岡歯科大学 501 講義室において「福岡歯科大学・福岡看護大学・福岡医療短期大学　口腔医学研究センターキックオフシンポジウム」を開催し、理事長ならびに学長、センター長の挨拶の後、5 つの PF の各リーダーが、各 PF の到達目標や構成員と研究内容を紹介した。

6) アニマルセンター

令和元年度の動物実験計画承認書の申請件数は 20 件で、動物種の導入はマウス (SPF 含む) が 539 匹、ラットが 45 匹、カエルが 74 匹、犬 6 匹を導入し、ほとんどの動物種で昨年度と比して飼育頭数が増加し、研究活動の活性化が見られた。また、アニマルセンター使用者講習会は、更新者 (4 年毎) 25 名、新規登録者 16 名が受講した。また、12 月に日本実験動物学会が実施する動物実験に関する外部検証を受審し、評価結果に基づき、関係規則等の改正を行った。

7) 科学研究費助成事業の獲得

科学研究費助成事業の獲得状況は、**別表 2**(歯科大学)、**別表 3** (看護大学)、**別表 4**(短期大学)のとおり。歯科大学では平成 30 年度と比して、採択件数 77 件から 74 件と 3 件減となり、採択金額も 5,850 千円減少した。看護大学では、採択件数 9 件から 15 件と 6 件増となり、採択金額は 8,100 千円増加した。短期大学では、採択件数は 2 件で前年度と変わらず、採択金額は 1,400 千円増となった。

科研費獲得に向け、恒常的に研究助成金を獲得している教員による FD 及び研究計画書のブラッシュアップを実施するなど、全学的に外部資金獲得マインドの向上を図っている。

8) 研究倫理の確立

8 月に「研究不正を防止するための研究倫理意識の向上」の FD 講演会を実施し、歯科大学、看護大学、短期大学の教職員及び大学院生を含む 140 名が受講した。なお、未受講者については、当日撮影した DVD によるビデオ講演会の受

講を課し、研究に関わる教職員全てが受講できる環境を整えた。また、10 月に新規の研究者を対象に「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」及び「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」に基づき、「人を対象とする研究の倫理および研究の実施に関する講習会」を開催し、合計 25 名が参加した。なお、その後受講を希望した研究者については、ビデオ講習会を開催し、令和元年度は計 45 名が受講した。

３．学生の支援等

１）修学等の支援

（１）修学支援システム及び主体的学習支援体制の整備・充実

① 助言教員制度･チューター制度の活用

歯科大学では、低学年教育や CBT 試験等の学年固有の課題解決のため助言教員 FD を開催し、助言教員と学生とのコミュニケーションの取り方及び学修指導方法等について協議した。特に指導が必要な学生に対しては個別面談を適宜実施する等、学生に対する適切な指導を行った。また、今年度初めて保護者に対して助言教員等が大学の取り組みや修学状況等を説明する「学年説明会及び個別面談」を 8 月に実施し、その後の保護者アンケートでは大変高い評価を得ることができた。

看護大学では、昨年度に引き続きチューター教員による定期面談を 4 月、9 月と 2 回実施したほか、欠席過多、成績不振学生などについては、保護者を交えた三者面談も含め、学生との面談を繰り返すことで細かい学生指導を行った。

短期大学では、対人関係や成績不振に悩む学生に対し、学年担任・助言教員制度を活用し、本人や保護者を含めた面談を実施した。また、学修ポートフォリオを活用し、学修指導等を行った。

② スチューデント･アシスタント(SA)制度の活用

歯科大学では、学生及び大学院生等が、学生に対する学習支援や学生生活支援業務に従事することにより、学生相互の成長を図ることを目的に、4 月に SA を募集、38 名を採用し、指導終了後は報告書を提出させる等、適切に運用した。なお、6 月と 12 月に研修会を開催し、資質向上を図るとともに、今後の課題について検討した。SA 自身の成長とともに、留級生を含む学生の学習意欲が高まった。

③ ティーチング･アシスタント(TA)制度の活用

歯科大学大学院では、ティーチング･アシスタントの資質向上を目的とした研修を 7 月に実施し、学部学生に対する教育改善・授業改善への貢献意欲を高めた。

短期大学では、教育の活性化を目的とし、専攻科生 20 名を TA として採用し、採用者は、指導方法の研修を受講後、学科学生の学修支援（課外学修）等を行った。

④ 多様な学生に対応した将来の進路を含めた指導の実施

歯科大学では、昨年同様、助言教員が日々学生の指導を行ったほか、学生相談室での面談並びにオフィスアワーにおいても修学上の問題等について個別の面談や相談を実施した。また、休退学に関して学生や保護者からの多くの相談に、学生部長、学生部次長、助言教員が個別に丁寧に対応した。

看護大学では、将来の進路の多様性を知る機会を与えることで、現在の勉学のモチベーションアップにつながることを期待し、「看護の仕事」と題して、専門領域ごとの看護師の役割、助産師や保健師の仕事内容、働き甲斐などについてのガイダンス及び相談会を昨年度に引き続き 4 回実施した。また、9 月 4 日に第 1 回目の就職合同説明会を実施し、学生の就職への意識を高めることができた。

短期大学では、成績不振学生に対する補習授業を、土曜日を含めた課外時間や休暇中に実施し、未取得科目の軽減と学力向上へ努めた。また、就職へのモチベーションアップのため、開業歯科医院等に参加を依頼し、就職ガイダンスを開催した。

⑤ 修学支援の実施

歯科大学では、昨年同様、第 1 学年の成績不振者及び希望者を対象に、理数系基礎科目 3 科目の修学支援を実施した。

看護大学では、昨年度に引き続き定期試験の一週間前から、通常より 30 分繰り上げて図書館を開館し、学生の勉学支援を図った。また、教育環境をより充実させるため、実習準備室を看護実習室へ変更する改修工事を行った。これに伴い、実習準備室及び売店を新築の増築棟に移設のうえ、売店の跡に学生ラウンジを増設した。

短期大学では、実習の予習復習に活用できる e-learning 教材を蓄積し、学生の課外学修を支援した。

⑥ 講義録画システムの活用

歯科大学では、私立学校施設整備費補助金の助成を受け、口腔医学教育の推進事業として設

置されたマルチメディア装置を引き続き活用し、授業内容を復習する等学生の自学自習を促進した。

⑦ 情報図書館蔵書情報の整備等

昨年度に引き続き蔵書情報の整備の一環として、図書システムにより、学園全蔵書の 3 分の1に当たる約5万冊の歯科大1階保存書庫の製本雑誌の点検整備を実施した。

また、利用者サービスの一環として、「田中健藏基金」からの支援により、学生が口腔医学の高い専門性を支える教養を身に付けることを目的として、歯科大図書館に岩波新書等を新たに購入した。

（2）高校等との連携推進

歯科大学・看護大学・短期大学は、口腔医療・口腔保健・口腔介護を志向する中高生を支援するため、延べ8校から 271 名の職場体験・上級学校体験を受け入れ、3 大学合わせて延べ 58 名の教職員が参加し、中高生の興味に応えた。

歯科大学では、依頼のあった高校に出向いて講義を実施し、オープンキャンパスでは教員の講話、模擬実習体験及び在学生との交流等を通し、参加生徒に対応した。

看護大学では、依頼のあった高校に出向き、出張講義・進学ガイダンスを実施し、オープンキャンパスでは教員の模擬講話、看護体験及び在学生との交流等を通して、参加した生徒の興味に応えた。

短期大学では、高校教員対象オープンキャンパスを実施し、7 校の参加を得た。また、オープンキャンパス時に専門教育に関連する実習体験や模擬授業を実施することで、向学心のある参加学生等に対応した。

（3）文部科学省「高等教育の修学支援新制度（高等教育無償化）」の対象校に選定

10 月に、文部科学省が実施する意欲ある子どもたちの進学を支援するため、授業料・入学金の免除または減額と、返還を要しない給付型奨学金の大幅拡充による高等教育の修学支援制度（高等教育無償化）の対象校として、歯科大学、看護大学、短期大学の 3 大学が選定された。

（4）学生の経済支援の充実

歯科大学では、昨年度に引き続き学生共済会等との連携のもと各種奨学金の案内及び手続きを適宜行った。また、学業成績が特に優秀で品行方正かつ健康な学生に対して、各種特待生制度を実施した。経済的に困難な学生に対して適切に相談を受け、授業料減免や学生納付金納付猶予等の支援を行った。

看護大学では、昨年度に引き続き各種奨学金の周知とその申請手続きの支援等を適宜実施した。また、本学独自の看護職育成奨学金制度の周知を行い、個別に学生相談を実施した。学業成績が特に優秀で品行方正かつ健康な学生に対して、特待生制度を実施した。

短期大学では、各種奨学金の案内及び手続きの支援や経済的に困難な学生の相談を受け、学生納付金納付猶予等の支援を適宜行ったほか、学業成績が特に優秀で品行方正かつ健康な学生に対して、特別奨学生制度を実施した。

（5）福岡歯科大学学生後援会・学生共済会・同窓会との連携

① 7 月～9 月に 17 地区で開催された学生後援会支部懇談会に、本学から役職教員が出席し、本学の現況、学生の学業成績等について説明し、保護者の協力を要請するとともに保護者からの要望も聴取し、11 月には支部懇談会終了後の報告会において回答を行った。

② 学生共済会は、5 月に理事会･代議員会合同会議を開催し、前年度の事業に関する決算等について審議を行った。また、3 月の理事会･代議員会合同会議は新型コロナウイルスの影響で書面による会議とし、学生支援等の事業計画を決定した。

③ 同窓会については、6 月に開催された同窓会定時総会懇親会及び定例懇談会に理事長、役員が出席し、意見交換を行って連携を図った。

また、5 月 26 日には同窓生オープンキャンパスを開催し、理事長、大学長ほか、役職教員等及び同窓会役員が出席して、参加された同窓生とその子弟らに学内施設見学や大学及び入試の概況説明を行った。

（6）福岡看護大学学友会･学生後援会との連携

看護大学では、大学長、学部長、学生部長等が出席し、6 月に福岡看護大学学友会総会を開催し、学友会の役割と平成 31 年度予算案について協議した。

10 月には、学部長、学生部長等が出席のもと、学生後援会理事会及び懇親会を開催し、看護職育成奨学金貸与者の決定、オープンキャンパスの予定のほか、学生の支援のために実施する諸事業について報告し、令和元年度予算の修正等について協議した。また、1 月にも、学生後援会理事会を開催し、令和元年度決算及び令和 2 年度予算等について協議した。

２）学生の受け入れ

（1）学生募集活動の強化と多様な選抜方法の策定

歯科大学では、入試広報について、入試委員会を中心に検討のうえ交通広告や SNS 等を活用した広報活動の強化及び予備校の複数回訪問、新たな専願特待生制度の導入等を行った。指定校については、昨年に引き続き 50 校とした。

口腔歯学部の志願者数は218名で、入学者数は88名、大学院は15名であった。

看護大学では、入試委員会を中心に学生募集のあり方を検討し、全教員により高校訪問対象校に対して複数回訪問したほか、九州内で実施された進学説明会への参加（12回）、高校生の大学見学の受け入れ（1校）を積極的に行った。指定校については、昨年度の入試結果等を踏まえ、昨年同様の52校とした。また、学生募集については、本学の特色である口腔医学を取り入れた新しい看護学やwell-beingの考え方について高校生や教員、保護者に説明した。志願者数は昨年比6%減の399名、競争倍率は昨年同様1.9倍となり、107名(募集定員100名)が入学した。

短期大学では、高校訪問の訪問結果の分析、フィードバックを引き続き行い、次の訪問時の対策に繋げた。

歯科衛生学科では、オープンキャンパス・入試日程ともに実施回数を一昨年並に増加し、ホームページをこまめに更新する等受験生確保に努めたが、定員80名に対し入学者47名となった。専攻科は、定員20名を上回り、学外入学者4名を含む23名の入学者を確保した。

（２）入試広報機能の充実等

各大学の授業の様子や学生生活等の情報について、学園および各大学のSNS公式アカウントより発信した。また、昨年度末リニューアルした福岡歯科大学のホームページについて、情報掲載のためのシステム操作説明会を実施し、情報発生源の部署からタイムリーな情報発信ができるように運用面を整備した。

３）介護福祉士実務者学校（通信課程）

平成29年4月に開講した介護福祉士実務者学校（通信課程）は、歯科衛生学科の令和2年度入学者から、2年次科目「介護研修Ⅰ～Ⅴ」として開講することを決定した。

４．社会との連携・貢献

１）地域連携センター

本学園キャンパスは、歯科医師、看護師、歯科衛生士、介護福祉士を養成する三大学の教育機関を核とし、敷地内に医科歯科総合病院、介護老人保健施設を設置しているという特色がある。地域連携センターは、地域団体との連絡調整を行って本学園全体の地域貢献の取り組み（別表5）を支援してきた。特に教育機関としての特色を活かして口腔医学を地域に展開してきた公開講座等については、別表に整理した（別表 6）。新型コロナウイルス感染症とつきあいながらの、超高齢社会における大学の地域貢献のモデルづくりの模索が新たに課題に加わった。

（１）社会貢献活動における連携団体

① 福岡学園の所属する田村校区自治協議会及び社会福祉協議会との連携活動として、地域カフェ「かふぇもりのいえ」を公民館、学園関連施設において毎月1回開催し、通算53回となった（今年度11回開催、延べ1,231名参加(前年比11%増)、3月以降は新型コロナ感染症流行拡大のため開催を見合わせ中)。地域と学園教職員・学生との人的交流は、田村自治協議会主催の夏祭り・運動会への三大学学生ボランティア参加、ならびに本学園の学園祭への地域の子供会チーム等の参加などで行われた。

② UR九州支社との包括連携協定に基づいて、星の原団地自治会との連携のもとで地域カフェ、子ども食堂への学生ボランティア参加を支援した。また、団地住民向け健康講座（UR Community College星の原校)4回を主催した。

③ 野芥校区自治協議会・早良区社会福祉協議会・福岡未来創造プラットフォームの連携のもとで同校区子ども食堂に6回にわたり歯科大学ならびに看護大学の学生ボランティア延べ39名を派遣し、参加小学生の調理実習ならびに学習支援を行った。

④ 早良区地域保健福祉課ならびに福岡市歯科医師会早良支部との学官民連携に基づいて、早良区のアクティブシニア世代に対するオーラルフレイル予防事業を立ち上げた。パイロット事業の準備のため、オーラルフレイル・口腔機能低下症の診断と治療についての早良支部歯科医師対象の講演会（2回）に訪問歯科センター教員を講師派遣した。

⑤ 早良区地域保健福祉課と連携し、年次恒例健康イベントに口腔がん検診のブース出展を継続した。

⑥ 福岡市歯科医師会、糸島市歯科医師会と連携し、「第44回福岡市民の健康を歯と口から守る集い」（6月9日)、「糸島市民の歯の健康のつどい」（6月8日）に医科歯科総合病院歯科医師・歯科衛生士を派遣した。また、福岡市歯科医師会早良支部と連携し、「早良区健康まつり」（10月10日）に口腔がん検診歯科医2名を派遣した。

⑦ 早良区医師会主催の医療職向けならびに一般市民向けオーラルフレイル予防講演会に講師派遣を行った。

⑧ 七隈線沿線三大学連携協議会（福岡歯科大学、福岡大学、中村学園大学）で定例開催されている健康イベント、栄養クリニック健康セミナー、シンポジウムへの講師、運営スタッフ派

遣を継続した。また、七隈線沿線三大学学生交流の試みとして、福岡大学七隈祭実行委員を本学学園祭にゲスト審査員として招聘した。
⑨ 福岡未来創造プラットフォームは、昨年度、福岡都市圏 15 大学、福岡市、福岡商工会議所、福岡中小企業経営者協会が参加し発足したもので、野芥校区学習支援、中村学園大学栄養科学部大学院生の歯科大学施設利用臨地実習を引き続き実施したほか、今年度から開講した市民向けリカレント教育講座「子どもの貧困を科学する」に参画した。
⑩ 近隣の公立中学校 5 校、私立高等学校 2 校の生徒を受け入れ、医療関係職の職業教育、ならびに養成課程に関する教育の支援を継続した。
⑪ 近隣の介護事業所ネットワークとは、早良第 9 圏域地域ケア会議を通じ、医科歯科総合病院における医療介護連携を日常的な交流を持つが、全国的な認知症啓発イベント「Run 伴」の早良区での主催団体として、本学学園祭ゲストとしてステージ提供に関する連絡調整を担当した。
⑫ 近隣病院・医院・介護事業所等の医療関連職や団体とは、医科歯科総合病院における医療連携を通じて日常的な交流を行ってきたが、今年度からリカレント教育の場「連携の会」を創出し、研鑽と交流を深める基盤を固めた。

（２）地域住民向け健康教育等の公開講座開催

① 福岡歯科大学公開講座は、医科歯科総合病院健康講座として実施した。企画開催にあたっては、昨年度から七隈線ターミナル駅の商業施設会議室で開催している。取り上げたテーマは、胃、肝臓、胆嚢、膵臓の疾患、鼠径ヘルニア、乳がん、難聴、アレルギー、肩・腰・膝の整形外科的疾患、腸内細菌叢と全身の健康との関わりとバリエーションに富み、地域住民延べ 137 名（前年比 63%増）が受講した。来聴者のほぼ半数がリピーターであることから、より多くのインフルエンサーを獲得して地域の中での存在感を高める足がかりを得たと判断した。
② 看護大学公開講座は、「今から始める肺炎と慢性閉塞性肺疾患の予防」のテーマを 9 月 5 日に開催され、130 名が受講した。
③ 短期大学公開講座「口腔がんを考える」は 9 月 29 日(日)に開催され、111 名が受講した。それぞれに地域住民のニーズを分析し魅力的なテーマを構成し、盛会となった。
④ 出前講座は、福岡広域都市圏の主催団体からの要望に応じて教職員を地域の公民館等に派遣して実施する地域住民向け講演で、48 回（昨年比 33%増）実施し、1,196 名（昨年比 14%増）が受講した。このうちの 18 件は、オーラルフレイルとその予防に関連するテーマであった。また、現在は校区社会福祉協議会で主催している「ふれあいサロン」からの講演依頼が多く、主宰者に積極的に講座に関する情報提供を行っている。
　また、歯科大学、短期大学の研究ブランディング事業の一環として、コミュニティカフェ「かふぇもりのいえ」では、延べ 1,231 名の参加者に対して「介護予防」、「子育て支援」などの健康情報を提供するとともに、歯科無料相談、介護無料相談、内視鏡医療相談を 12 回実施した。
　UR 星の原団地では、歯科大学・看護大教員による健康講座提供と健康調査の取り組みを開始し、説明会、健康講座を開催し、新型コロナ感染症流行期となってからはチラシによる健康情報の広報に切り替えて継続した。
⑤ 超高齢過疎地区（早良区板屋地区）において、住民健康診断を実施（8 月 16 日）し、結果報告ならびに健康相談（9 月 20 日）を行った。
⑥ 地域の保健所、歯科医師会主催の健康イベント（「福岡市民の健康を歯と口から守る集い（6 月 9 日(日)開催、福岡市歯科医師会主催)」、「歯の健康のつどい」(6 月 8 日（土)、糸島市歯科医師会主催）に歯科医師、歯科衛生士を派遣し、「口腔がん検診」を実施し、相談を通じて口腔医学の理解を深め市民の健康管理に貢献した。
⑦ 大学連携（七隈線沿線三大学合同シンポジウム、福岡未来創造プラットフォーム）事業として、中村学園大学栄養クリニック健康フェスティバルに歯科医師を派遣し、参加市民の口臭測定を行い、健康アドバイスを積極的に行った（地下鉄七隈線沿線三大学連絡協議会健康ワーキング活動の一環、6 月 8 日(土)開催)。また、野芥校区子ども食堂における健康衛生教育、リカレント教育プログラム「子どもの貧困を科学する」の企画実施に参画し、口腔の健康から子育てを支援した。

（３）医療介護従事者向け生涯研修・リカレント教育講座開催

① 福岡歯科大学学会特別講演を通じて、三大学教職員を始めとする学会員に向けてメインテーマ「口腔医学研究の活性化―未来に輝く大学を目指して―」についての生涯研修の場を設けた。
② 医科歯科総合病院では、初めての取り組みとして本年度「連携の会」を開催し、近隣の医療介護従事者を対象とした多職種入り混じりのリカレント教育の場を創設した。また、臨床研修医対象に開講している臨床セミナーを広く公開している。
③ 歯科大学では、大学院特別講義を口腔医学

専攻の大学院生のみならず広く教職員等に公開した。また、同窓生や開業歯科医師等を対象とした卒後の生涯研修やセミナー等を開催し、口腔医療を実践できる人材の育成と最新の医療情報の発信に努めた。令和元年度は生涯研修8 プログラム（「嚥下リハと訪問歯科に役立つ知識」、「スプリント治療実践セミナー」、「口腔インプラント初級講習会」、「スケーリング・ルートプレーニングに役立つ知識」、「歯科組織再生セミナー」、「睡眠時無呼吸マウスピース治療実践セミナー」、「見逃さないぞ、口腔がん！鑑別診断セミナー」、「第6世代のNiTi File を用いた根管形成法の実際」）を開催し、113 名が参加した。また、同プログラムの充実のため、プログラム内容等について、福岡市歯科医師会学術委員から意見聴取を行い、プログラム編成および開催日設定に反映させた。

④ 短期大学では、リカレント教育として文部科学省の委託を受け、平成21・22年度に実施した「歯科衛生士の口腔機能向上スキルアップ講座」の経験を踏まえ、令和元年度は「口腔機能低下症～診断から対応まで～」をテーマに歯科衛生士・歯科医師等を対象に2日間のアドバンスコースとしてスキルアップ講座を開講し、20名に修了証を授与した。

２）医科歯科総合病院

（１）患者数等

外来患者・入院患者総数等は表9のとおり。

表9　外来患者・入院患者総数等

	外来患者総数(人)		入院患者総数(人)	
	元年度	対前年比	元年度	対前年比
医科	52,915	3.7%減	6,480	12.8%減
歯科	141,328	4.9%増	4,501	0.4%増
合計	194,243	2.6%増	10,981	7.8%減
1日当	759.8	－	30.1	－
平均在院日数	－	－	8.7日	－
病　床稼働率	－	－	60.1%	7.8%減

医療収入は17億7,445万円(前年比1億2,445万円増）であった。

（２）安全で良質な医療の提供

① 病院組織の充実

昨年度に引き続き、患者に高度で専門的な医療を施す目的で、がんリハビリテーション管理料算定のための講習会に多職種計6名（医師、言語聴覚士、理学療法士、看護師）を派遣して修了証を取得し、認定者は合計12名となった。また、摂食・嚥下障害看護認定看護師教育課程のために試験を受験させた。

② 診療体制の整備・確立

令和元年度においては、医科23科、歯科4科、訪問歯科センター(29年10月)、内視鏡センター(29年11月）、小児口腔外傷センター(30年10月)が協働で地域医療の充実に貢献するとともに、令和元年11月に摂食嚥下・言語センター(ことばと飲み込みのケアセンター)を設置し、医科・歯科連携の多職種でことばや飲み込みの問題に対して専門的な医療の提供を開始した。

③ クリティカルパスの活用

クリティカルパスの活用を図り、令和元年度には1例の新規パスを追加作成し、パス使用症例は1,021例（昨年度749例）と増加した。

④ サービスの向上

ア）職員のマナーアップ等

患者のご意見や医療相談室に寄せられた相談115件について、医療相談室及びサービス・マナー向上委員会において検討し、より質の高い医療の提供に向けて医療担当職員及び事務職員のマナーアップにつなげる指導等を実践した。

イ）院内イベントの充実

歯科大学の写真同好会学生、陶芸同好会学生の協力を得て、昨年に引き続き病院ホール・廊下において「写真展」及び「陶芸展」を開催し、心の癒しの場とした。「陶芸展」については、10月9日から10月16日に開催し、「写真展」については常時開催し、四季折々の風景写真を季節に合わせて展示した。

⑤ 土曜診療の充実

令和元年度の土曜日における1日外来患者数平均は歯科65.5人（30年度64.8人、29年度66.8人)、医科56.6人（30年度60.2人、29年度48.6人)、合計122.1人(30年度125.0人、29年度115.4人）となり、患者数は、平日の6分の1程度であるが、土曜日の診療により地域の方々の利便性を確保し、地域貢献を果たしている。

⑥ 歯科医師臨床研修の充実

令和元年度歯科医師臨床研修は、43名（複合型研修プログラム33名、単独型研修プログラム10名）が研修を行い、令和2年3月26日に修了証を授与した。

⑦ 多職種連携による診療体制の充実

昨年度に引き続き多職種連携のもと摂食嚥下カンファレンスを毎月実施している。令和元年度は、医師（耳鼻咽喉科)、歯科医師（口腔外科含む)、歯科衛生士、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、看護師、介護福祉士を含む延べ191名の参加者を得た。なお、カンファレンスでは、外来患者及び入院患者23名の摂食嚥下障害の症例検討を行ったほか、嚥下機能評価法、栄養補助剤、嚥下造影読影法などに関する講義及び嚥下内視鏡の操作並びに読影に関す

るハンズオンセミナーを含む 12 回のレクチャーを実施した。九州大学病院及び近隣の病院、介護施設からの参加者も迎えており、摂食嚥下障害を有する患者に関して地域の病診連携の基盤として機能している。

（３）病院管理体制の強化

① 病院情報システムの管理

昨年度に引き続き患者個人情報保護の観点からパソコンや USB における患者情報管理についての内部監査を各診療科に対して実施し、情報セキュリティ管理体制を確認した。

② 看護師の安定雇用

看護体制等検討委員会にて、看護師の離職状況を予測して、早めに求人対応することによって看護師の充足率低下を防ぐこととしていたが産前産後休暇取得者、病気休暇者が予想外に多かった。

③ 適正な保険診療教育の実施

適正な保険診療に関する講習会（7 月 10 日）を開催するとともに、会計入力データのチェック及び会計不備データの修正について、毎月、保険審査委員会及び科長会において指導した。また、年に 3 回無作為に入院患者の入院診療録を抽出のうえ監査を行い、監査結果を病棟運営委員会において報告し、適正な診療録の記載について指導した。

④ 災害訓練の実施

病院大災害訓練を昨年度に引き続き実施し、トリアージ訓練を強化する一方、今回は職員に対して訓練終了後、患者担送方法のミニ講習を開催した。

⑤ 患者増対策

ア）関連福祉施設（サンシャインシティ、プラザ、センター）と病院との医療連携の向上のため、各施設との情報交換会を引き続き定期的に開催し、33 名の入院患者を受け入れた。

イ）各診療科の特色を強調した病院概要を病院連携室において作成し、関連施設に広報した。

⑥ 病院における物流管理

物流管理システム（SPD）を平成 31 年 4 月より運用を開始し、定数配置を行い、効率的な運用が図れた。

（４）病診・病病連携体制の確立

① 病診連携室の充実

病診連携室にソーシャルワーカー1 名を増員し、地域の医院・診療所等との連携を図り、紹介患者数の増加、入院時・退院時の患者支援を充実させた。

また、11 月 21 日に地域の病院・医院・診療所の医師・歯科医師に対して本院に紹介された患者の症例報告、本院の医師・歯科医師による講演会（連携の会）を開催し、地域の医師・歯科医師（39 施設、51 名）との連携を推進した。

② 地域との連携

令和元年度の訪問歯科センターは、福岡県・福岡市歯科医師会とのさらなる連携体制の充実とこれまでの居宅、施設および病院での訪問診療体制の見直し・発展を目標として診療を実施してきた。

歯科医師会とのさらなる連携体制の充実の実績として、1）歯科訪問診療マッチングシステムの完成および後方支援病院としての診療体制の充実、2）済生会福岡総合病院を中心としたがん診療連携において、本院とかかりつけ歯科・がん診療連携歯科での周術期口腔機能管理連携体制の構築、診療可能歯科診療所リストの作成、3）福岡県歯科医師会との災害時歯科医療支援等体制の構築を行い、社会貢献に努めた。

なお、居宅・施設及び病院での訪問診療実績としては、延患者数が前年度比 116.2%、診療収入が前年度比 113%と増加した。

また、本院入院患者に対する周術期口腔機能管理や誤嚥性肺炎予防および重症化予防のための口腔ケアについても看護部・歯科衛生士部と診療体制を整えた。

さらに、昨年度より福岡市から委託された小呂島離島診療についても専門診療科のサポートのもと派遣歯科医師体制の整備を行い、島民の健康維持に貢献している。

（５）地域への貢献

地下鉄七隈線沿線三大学連絡協議会の健康ワーキング活動の一環として、6 月 8 日開催の中村学園大学栄養クリニック健康フェスティバルに歯科医師を派遣し、市民の口臭測定を行い、健康アドバイスを積極的に行った。

また、6 月 9 日開催の福岡市歯科医師会主催「福岡市民の健康を歯と口から守る集い」、6 月 8 日に開催の糸島市歯科医師会主催「歯の健康のつどい」に歯科医師、歯科衛生士を派遣し、「口腔がん検診」を実施し、市民の健康管理に貢献した。

訪問歯科センター、地域連携センターとの連携のもとに福岡市歯科医師会早良支部、早良区地域保健福祉課との学官民連携により地域のアクティブシニアを対象としたオーラルフレイル予防事業のパイロット的取り組みを開始した。

３）口腔医療センター

（１）患者数等

開院から 8 年目を迎え、専任歯科医師 12 名、歯科衛生士 11 名により、年間患者総数は 28,505 人（前年比 0.5%減）、1 日平均患者数は 111.1 人となった。また、医療収入は 238.6 百万円（前年比 2.1%減）となった。

（２）実習・研修施設としての活用

昨年度に引き続き臨床研修歯科医（単独型プログラム）（複合型プログラム）、福岡医療短期大学専攻科の臨床実地生及び 3 年次の臨床実習生を受け入れたほか、福岡歯科大学第 5 学年の臨床実習への参加、また、外部からは九州医療専門学校歯科技工士専攻科の受託実習生の受け入れを行い、実習・研修施設としての役割を果たした。

（3）セミナー室の活用

博多駅前という立地条件を生かし、同窓生や開業歯科医師等を対象とした大学主催の生涯研修や同窓会等主催のセミナー等の開催場所としてセミナー室を活用した。口腔医療センター主催の生涯研修として、昨年度に引き続き歯科医師を対象とした「スプリント治療実践セミナー」（参加者：7 名）、「睡眠時無呼吸症候群マウスピース治療実践セミナー」（参加者：22 名）大学との連携 1 件「ＳＲＰ実践セミナー」（参加者：24 名）を開催した。

４）介護老人保健施設

（1）利用者数

施設の独立した採算と業務改善を目指して、令和元年度は施設活性化検討委員会を月 1 回、計 12 回開催し、委員会内に WG を設置するなど、利用者増、業務改善を図った。さらに、医療機関、居宅支援事業所等への営業訪問及び問合せ対応を強化した結果、入所者数も増加し、令和 2 年 3 月の入所者数 1 日平均は 80.5 人となり、令和元年度 1 日平均でも 76.1 人（平成 30 年度：74.8 人）で、前年度比 1.3 人増となった。通所利用者は、新型コロナウイルスの影響で 3 月の利用者数は減ったが、令和元年度 1 日平均は 27.3 人（平成 30 年度 26.5 人）で、前年度比 0.8 人増となった。

サンシャインシティ施設利用者数等は表 10 のとおり

表 10　サンシャインシティ施設利用者数等

利用者（定員）	年間利用延数（人）	稼働率（%）	対前年比	1 日当平均（人）
入所者（85 人）	27,851	89.5	1.5%増	76.1
通　所（40 人）	7,937	68.2	1.9%増	27.3

（2）教育・実習施設としての活用

令和元年度から福岡看護大学 3 年生の実習がはじまり、10 グループ 61 人（延べ 488 人）を受け入れた。

また、福岡歯科大学及び福岡医療短期大学の実習生のほか、福岡看護大学 1 年生のフィールド研修の受け入れや近隣の福岡大学医学部及び看護学科の学生実習、中村学園大学栄養科学研究科博士前期課程学生並びに福岡女子高等学校の生徒等の実習施設として、延べ 1,207 人を受け入れ、介護福祉実習、口腔介護実習等を実施した。また、令和元年度（第 6 回）福岡医療短期大学の介護職員初任者養成研修に施設介護職員を講師として派遣した。

（3）介護報酬改定

令和元年度は、消費税率の引き上げに伴う、介護保険法の改正及び介護職員等特定処遇改善加算が新設され、利用者家族に料金改定説明会を行った。

特定処遇改善加算取得要件の 1 つである介護職員の資質向上のため、専門性の高い介護技術習得のための外部研修を積極的に受講させるとともに、特定処遇改善手当を新設して介護職員の処遇改善を行った。

（4）新型コロナウイルス感染対策

新型コロナウイルス感染対策として、2 月 26 日から家族の面会を全面禁止にしたほか、通所利用者の送迎時の検温、施設内の消毒、職員の健康管理等を徹底して感染防止に努めた。

（5）地域貢献

地域協力として、昨年度に引き続き月 1 回の近隣公園清掃への参加と清掃後の理学療法士等によるリハビリ体操等の指導を行った。また、10 月 19・20 日に開催された「健康まるごと福岡学園」で介護施設見学・介護無料相談を開催した。20 日には短期大学主催の「フレイル予防のサポーター」養成講座（参加無料）を施設内で開催し、地域の方、施設職員、入所者家族が参加した。その他、ボランティア団体等の絵手紙教室や書道教室、ギター演奏等コンサート、ぺんぎん保育園児・こぐま保育園児の訪問受け入れ等入所者と交流を図った。

５）新病院の開設

（1）病院建替え計画等

『つなぐ』〔①地域・社会をつなぐ、②教育・研究・臨床をつなぐ、③「医科」と「歯科」をつなぐ、④未来へとつなぐ〕を施設計画のコンセプトとし、平成 31 年 1 月の起工式から本工事を開始するとともに、設備等に関するヒアリングを実施し、医療機器および什器の備品等の現況調査ならびに更新精査を行ったほか、医療情報システム・SPD システム・受付予約システム等に関する WG による検討を行った。工事計画は順調に進み、開業予定は令和 2 年 9 月末予定。

６）社会連携

（1）大学連携事業

① 「地下鉄七隈線沿線三大学連絡協議会」（中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学）においては、昨年度に引き続き三大学の特色を生かし

た教養系共同開講授業科目「食と栄養と健康～生活習慣病の仕組みと予防～」を開講した。

また、地域の健康づくりや疾病予防等を通じて地域社会に貢献するため、4月に一般市民参加のウォーキングイベントを、10 月には「アンチエイジングの今」をメインテーマに合同シンポジウムを開催した。

七隈線沿線三大学の学生交流会（3月）での、社会貢献活動の連携・協働への模索を支援し、福岡大学学生代表（学園祭実行委員）による本学学園祭ゲスト参加を支援した。

② 「西部地区五大学連携懇話会」（九州大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学）においては、引き続き単位互換科目を設定するとともに、五大学共同開講授業科目「博多学」を開講し、教育連携を展開した。また、職員研修の相互開放を実施した。

③ 「福岡未来創造プラットフォーム」

平成 30 年 9 月に福岡大学が中心となり、「西部地区五大学連携懇話会」（九州大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学）をベースに、福岡市及び同市近郊の複数大学、地方自治体、産業界も連携して発足した「福岡未来創造プラットフォーム」において、5月に参画大学が 15 大学に拡大し、同プラットフォームに形成した 5 つの WG のうち、関連する WG に参画し、各種取り組みを実施した。また、同プラットフォームについては、私立大学等改革総合支援事業タイプ 3「地域社会への貢献」へ参画大学として申請し、採択された。

④ 「大学ネットワークふくおか」（歯科大学を含む福岡都市圏 19 大学と福岡市、福岡商工会議所）は「福岡未来創造プラットフォーム」設立に伴い、5月に発展的に解散した。

（２）地域貢献活動を基盤にした地域志向教育・研究の推進

1年次前期「キャリアデザイン／地域医療」のカリキュラムに、認知症サポーター養成講座を組み込み、新入生に対する地域の高齢化への理解を促した。

（３）地域包括ケアシステムの構築支援

地方自治体、医療・介護・福祉団体及び地域での多職種連携を基盤とした地域包括ケアシステムの構築のため、下記のような支援を行った。

① 医科歯科総合病院及び口腔医療センター通院圏域の公民館・自治会からの要請に基づき、出前講座を 48 件実施し、1,196 名の参加者に健康情報を提供し、口腔医学のまちづくりへの展開をすすめた。

② 早良区保健福祉課からの要請に基づき、早良区地域包括ケアシステムの生活支援・介護予防部会に教員を派遣し、地域におけるオーラルフレイル対策の制度設計を行った。

③ 福岡市社会福祉協議会等が組織した認知症啓発イベント「Run 伴＋2019」の準備委員会に教員を派遣し、啓発イベント開催にあたり、学園祭ステージを会場提供するために田の歯科祭実行委員会との連絡調整を行った。

④ 「かふぇもりのいえ」「星の原カフェ・やすらぎ食堂」「野芥校区学習支援活動」での各種相談を通して地域包括ケアシステム形成支援のための地域の課題や医療介護ニーズに関する情報収集を行った。

７）国際連携

（１）大学間交流等

① 福岡歯科大学

ア）リバプール大学歯学部（イギリス）

4月上旬に7日間、Phil Smith 先生と2名の学生が来学し、病院実習等を行うとともに、Phil Smith 先生は教員及び大学院生を対象に特別講義を行った。

一方、4月下旬には、坂上教授及び都留教授、学生7名が同大学を訪問し、相互交流を実施した。

イ）ブリティッシュコロンビア大学歯学部（カナダ）

本学を担当していた UBC のシャー教授退職に伴い、4月に理事長が同大学を訪問し、今後の相互交流について再度協定を締結した。

また、同時期に小島教授及び田中教授、学生7名が同大学歯学部学生交換プログラムに参加した。

ウ）上海交通大学口腔医学院（中国）

7月に6日間で杨秩准教授と学生6名が来学し、補綴科、保存科等の病院実習等を行った。

エ）慶熙大学校歯科大学（韓国）

2月初旬から7日間、オクシク副学長と5名の学生が来学し、小児歯科、矯正歯科等の病院実習等を行った。

オ）中国医科大学口腔医学院（中国）

11月下旬に8日間で张英准教授ら教員2名と学生6名が来学し、インプラント科等の模擬実習を行った。

なお、令和2年3月に予定していた本学と姉妹校協定を締結している中国の2大学（上海交通大学、中国医科大学）及び韓国の1大学（慶熙大学校歯科大学）への教員及び学生の派遣は、令和元年 12 月から世界的に流行が始まった「新型コロナウイルス感染症」の影響により中止した。

② 福岡看護大学

ア）リバプール大学（イギリス）

リバプール大学との協定締結へ向けて、協議を行い、令和2年3月に海外研修を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため令和2年後期以降に延期となった。

イ)モナッシュ大学（オーストラリア）
　モナッシュ大学での学生研修を引き続き実施する方向で学生募集を行ったが、募集定員に満たなかったため、今年度は実施を見送ることとなった。
③ 福岡医療短期大学
　姉妹校協定を結んでいる東釜山大学への訪問は近年の日韓関係により中止が続いているため、専攻科のアメリカ研修時の協定校について検討した。

（２）海外研修派遣
　研究の国際化を図るため、歯科大学では延べ 40 名の教職員及び大学院生を海外に研修派遣した（別表 7）。看護大学は 5 名の教員を、短期大学は１名の教員を海外に研修派遣した（別表 7）。

５．組織運営及び財務強化･施設整備

１）教育･研究組織等の活性化

（１）福岡看護大学専任教員採用等設置計画変更及び設置計画履行状況等調査結果
　令和元年度文部科学省による設置計画履行状況等調査の結果については、指摘事項が付されなかった。大学等設置に係る寄附行為（変更）認可後の財政状況及び施設等整備状況調査（令和元年度）結果については、指摘事項（是正）として「監事の出席していない理事会があることから、私立学校法に定める監事の職務を認識し、今後は監事出席の上で開催すること。」が付された。

２）人事制度の充実と人材確保

（１）柔軟で多様な人事制度の構築
① 任期制教員の再任
　任期満了となる教員（大学：教授 10 名、准教授 4 名、講師 8 名、助教 7 名）（短大：准教授 1 名、講師 2 名）の再任について、審議の結果、再任申請者全員を再任した。
② 福岡歯科大学教員選考規程の改正
　病院の将来的な構想を踏まえて、訪問歯科センターを総合歯科学講座の 1 分野として教員を配置した。また、画像診断学分野の教員定数の見直し等を行った。

（２）大学運営の活性化と人材育成等
① 人事考課システムの効果的活用
　人事考課の平準化を目的として考課者研修を行った。
② 人材育成
　事務職員等の資質向上を目指し、学外の各種研修会への参加を促進し、事務職員等延べ 88 名が能力向上セミナー、資格講習会等に参加した（別表 8）。学内では、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図ることを目的とする SD「IR とは何か？その活用法と歯科大学における IR 活動」等を 8､11 月に行った。（別表 9）。また、西部地区五大学連携懇話会の職員研修「ビジネスマナー基礎研修」（別表 10）や福岡未来創造プラットフォーム共同 SD 研修「大学改革に関する研修（基礎コース）」など、他大学と連携した研修に事務職員 4 名が参加した（別表 11）。

（３）国家公務員準拠の給与改定等
　国家公務員に準拠し、a)俸給表の改定 b)期末手当 c)住居手当の改定を行うとともに、管理職手当等の改定を行った。

（４）嘱託職員就業規程の改正等
　嘱託職員（有期契約者）のうち、理事長が特に必要と認めた者で、契約限度を超えて雇用する職員および定年年齢を超えて雇用した嘱託職員（無期転換者）について、これまで雇用限度がない状態であったため、上限の年齢を設けた。併せて、介護老人保健施設に同様の規則を制定した。

（５）役員、顧問、役職教員の選任等
① 役員等の選任
ア)熊澤榮三氏の令和元年 8 月 31 日理事･評議員辞任に伴い、後任に第 539 回理事会（令和元年 9 月開催）で大山茂氏を選任。任期は令和元年 10 月 1 日から令和 2 年 8 月 2 日まで。
イ）窪田惠子氏の令和 2 年 3 月 31 日看護大学長任期満了に伴い、同氏を第 545 回理事会（令和 2 年 3 月開催）で再任。任期は令和 2 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日まで。
ウ）北村憲司氏の令和 2 年 3 月 31 日短大学長任期満了による退任に伴い、後任に第 545 回理事会（令和2年3月開催）で田口智章氏を選任。任期は令和 2 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日まで。
エ）香月俊博氏の令和元年 5 月 31 日評議員辞任に伴い、後任に第 536 回理事会（令和元年 5 月開催）で松添裕晃氏を選任。任期は令和元年 6 月 1 日から令和 2 年 8 月 2 日まで。
オ）武井俊哉氏の令和 2 年 2 月 29 日評議員辞任に伴い、後任に第 545 回理事会（令和 2 年 3 月開催）で吉永修氏を選任。また、新任の評議員として同理事会において、中畑高子氏を選任。両氏とも任期は令和 2 年 4 月 1 日から令和 2 年 8 月 2 日まで。
カ）松本裕子学事顧問の令和 2 年 3 月 31 日任期満了に伴い、同氏を第 545 回理事会（令和 2

年 3 月開催）で再任。任期は令和 2 年 4 月 1 日から 1 年間。
② 役職教員の選任
ア）湯浅賢治氏の令和 2 年 3 月 31 日全身管理・医歯学部門長の退任に伴い、後任に第 545 回理事会（令和 2 年 3 月開催）で池邉哲郎氏（口腔外科学分野・教授）を選任。任期は令和 2 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日まで。
イ）令和 2 年 3 月 31 日副病院長の任期満了に伴い、城戸寛史氏（歯科診療部門等担当、口腔インプラント学分野・教授）、川野庸一氏（医科診療部門等担当、眼科学分野・教授）、樋口勝規氏（医療安全・危機管理担当、客員教授）の再任及び中畑高子氏（診療支援部門担当、客員教授）の新任を第 545 回理事会（令和 2 年 3 月開催）において決定。任期は客員教授の両名は令和 2 年 4 月 1 日から 1 年間。城戸氏、川野氏は同日から 2 年間。

３）評価システムの充実

（１）福岡歯科大学

「福岡歯科大学の各種方針等」として、「内部質保証の方針、体制及び手続」等を制定した。また、学長が委員長を務める自己点検・評価委員会が中心となって「福岡歯科大学　点検・評価報告書」を作成した。

（２）医科歯科総合病院

平成 30 年 5 月に日本医療機能評価機構機能種別版評価項目 3rdG：Ver. 1. 1 の認定を受け、令和 2 年 5 月に提出予定の「期中の確認」のための自己評価を行っている。

（３）福岡看護大学

令和元年度事業計画に基づく達成目標の進捗状況の精査や「福岡看護大学の現状と課題」の作成に向けた検討を自己点検評価委員会で行った。

（４）福岡医療短期大学

令和3年度の短大基準協会の第3期認証評価受審に向けて準備を開始した。

４）情報公開の充実

（１）情報公開等の推進

① 大学ポートレートに参画するとともに、更新を継続して行った。
② 財務情報については、7 月発行の学園広報誌に前年度決算概要を掲載、9 月に学園ホームページで概要に加え財務諸表及び関連データを公開した。

５）危機管理体制の強化

（１）学校法人福岡学園寄附行為の変更認可

令和2年4月1日から施行される私立学校法の改正に伴い、役員の責任の明確化、監事機能の強化等を盛り込んだ寄附行為変更の認可申請を令和元年 12 月に文部科学省に提出し、令和 2 年 2 月 3 日付で認可された。

（２）情報化組織及び管理体制の整備・充実

①安全・安心な学内 LAN を維持するため、新たな脅威にも対応可能な技術的セキュリティ対策についての調査・見直しを行い、来年度にネットワーク不審通信検知機（内部対策）について導入することを決定した。
②セキュリティ講習の資料について、時代に即した内容で見直しと改版を行い、改版した内容で講習を行った。
③OS のサポート終了に伴い、対象機器を計画的に更新した。

（３）医科歯科病院の災害時危機管理対策

昨年度立ち上げた「大規模災害対策ワーキンググループ」で検討した大規模災害に対応した訓練を昨年度に引き続き 10 月 29 日に実施した。

（４）内部監査

監査環境の充実に向け、内部監査室に専任職員を配置した。また、令和元年度内部監査計画に基づき、「学園を取り巻く様々な危機事象への対応」等に関する監査を行い、所要の指導、助言等を行った。

（５）文部科学省「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づく履行状況調査の調査結果

7 月に文部科学省研究振興局振興企画課競争的資金調整室による履行状況調査を受け、ガイドラインに基づく公的研究費の管理・監査体制の整備がなされているとの結果を得た。

６）財政基盤の強化

（１）私立大学研究ブランディング事業

施設・設備と経常費を一体的に支援する「私立大学研究ブランディング事業」に福岡歯科大学及び福岡医療短期大学が支援対象校（タイプ A：社会展開型）として選定され、歯科大学は 27,000 千円、短期大学は 20,000 千円の助成を受けた。しかし、平成 31 年 2 月 19 日付け通知により、当初は平成 33 年度までの支援事業であったが、平成 31 年度で支援を終了する旨の連絡があった。

（２）その他の外部資金獲得

① 福岡歯科大学
私立大学等改革総合支援事業のタイプ 1（特色ある教育の展開）及びタイプ 3（地域社会への貢献）に選定され、経常費補助金の増額補助（一般補助：13,626 千円、特別補助：14,580 千円）を受けた。大学改革推進等補助金では、大学教育再生加速プログラム（テーマⅡ：学修成果の可視化）が 6 年目となり 6,667 千円の助

成を受けた。

また、奨学寄付金 20 件（9,327 千円）、受託研究 2 件（9,666 千円）を受け入れた。

② 福岡看護大学

看護大学は、受託研究 3 件（3,040 千円）を受け入れた。

③ 福岡医療短期大学

大学改革推進等補助金では、大学教育再生加速プログラム（テーマⅠ：アクティブラーニング、テーマⅡ：学修成果の可視化複合型）が 6 年目となり 9,334 千円の助成を受けた。

（３）寄付金の受入れ

学園ホームページで卒業生、保護者を含む広く一般の方々への寄付金募集を行い、3 月末までの個人寄付は、12 件、970 千円となった。

個人寄付内訳（寄付目的別※50 周年記念募金は別掲）は表 11 のとおり。

表 11　個人寄付内訳（寄付目的別）　（単位：千円）

区 分	歯科大	短大	病院	計
教育研究活動の振興	50	0	0	50
教育研究環境の整備	0	500	0	500
田中健藏基金	210	0	0	210
その他	0	0	210	210
計	260	500	210	970

この他、外郭団体の福岡歯科大学学生共済会から、52,537 千円【修学支援事業（特待生・SA）：40,692 千円、学生研修派遣事業：5,509 千円、学生研修センター維持整備事業：6,336 千円】の寄付があった。

（４）エネルギー使用量の削減

エネルギー使用量は、夏季に前年より平均気温が低く使用量が減少したが、春先の気温低下及び秋口の気温上昇によるガス空調機の使用量が若干増えた。よって前年度比、電力使用量 0.8％減、ガス使用量 0.1％増となった。

なお、電気料金においては九州電力㈱の割引を得て、電気使用料金が削減された。

７）その他

（１）福岡学園開学記念式典の実施

学園の開学記念式典を 7 月 26 日に実施し、永年勤続表彰及び特待生表彰並びに理事長特別賞表彰等を行った後に、福岡市美術館の中山喜一朗館長による記念講演を行い、学内外から約 200 名の参加者があった。

（２）学校法人福岡学園･福岡歯科大学創立 50 周年記念事業

2022 年に学校法人福岡学園及び福岡歯科大学が創立 50 周年を迎えるにあたり、昨年 7 月より募金活動を開始した。3 月末現在で 448 件、5,026 万円の寄付をいただいた。また、歯科大生及び若手教職員により記念グッズを作成し、次年度から売店で販売することとした。

（３）福岡歯科大学口腔歯学部入学定員（収容定員）変更認可

福岡歯科大学学則に定める入学定員を実態に即して 120 名から 96 名に変更するために 7 月 11 日文部科学省に提出していた収容定員変更に係る学則変更認可申請の補正申請が令和元年 9 月 6 日付で認可された。

（４）福岡医療短期大学保健福祉学科入学定員（収容定員）変更届

福岡医療短期大学学則に定める保健福祉学科の令和 2 年度学生募集停止に伴い、令和 2 年度からの学則変更の届出を文部科学省へ 12 月 13 日付で提出した。

（５）福岡看護大学増改築工事の実施

教育環境をより充実させるため、棟内の実習準備室、売店を看護実習室、学生ラウンジに改修し、増築部分に移設した。

Ⅲ．財務の概要

１．決算の概要

１）貸借対照表関係

（１）貸借対照表の状況と経年比較

令和元年度の資産の部合計は 689 億 6,100 万円、負債の部合計は 89 億 6,000 万円、純資産の部合計は 600 億 100 万円となった。

（単位：千円）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
固定資産	58,784,761	59,935,879	60,559,670	63,431,177	67,650,288
流動資産	1,981,824	1,348,051	1,319,240	1,831,187	1,310,793
資産の部合計	60,766,585	61,283,930	61,878,910	65,262,364	68,961,081
固定負債	1,374,951	1,357,791	1,287,998	4,290,229	7,505,384
流動負債	924,779	1,120,913	1,235,271	1,070,352	1,454,574
負債の部合計	2,299,730	2,478,704	2,523,269	5,360,581	8,959,958
基本金	58,650,245	60,987,952	61,644,241	60,725,805	61,211,368
繰越収支差額	△ 183,390	△ 2,182,726	△ 2,288,600	△ 824,022	△ 1,210,245
純資産の部合計	58,466,855	58,805,226	59,355,641	59,901,783	60,001,123
負債及び純資産の部合計	60,766,585	61,283,930	61,878,910	65,262,364	68,961,081

（２）財務比率の経年比較

比率名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
運用資産余裕比率	777.2%	720.4%	713.1%	679.8%	665.4%
流動比率	214.3%	120.3%	106.8%	171.1%	90.1%
総負債比率	3.8%	4.0%	4.1%	8.2%	13.0%
前受金保有率	353.1%	141.3%	130.8%	250.2%	149.1%
基本金比率	100.0%	100.0%	99.9%	95.3%	90.4%
積立率	101.3%	97.4%	97.4%	100.2%	99.4%

２）資金収支計算書関係

（１）資金収支計算書の状況と経年比較

令和元年度決算における収入は、学生生徒等納付金収入 33 億 5,500 万円、補助金収入 4 億 5,100 万円、医療収入 20 億 1,300 万円、受取利息・配当金収入 6 億 3,300 万円、借入金等収入 34 億円など 143 億 3,400 万円となり、これに前年度繰越支払資金 13 億 3,500 万円を加えた収入合計は 156 億 6,900 万円となった。支出は、人件費支出 43 億 6,500 万円、教育研究経費支出 16 億 5,600 万円、管理経費支出 3 億 6,100 万円、施設関係支出 38 億 3,400 万円、設備関係支出 1 億 9,400 万円など 148 億 9,500 万円となり、収入合計からこれを差し引いた翌年度繰越支払資金は 7 億 7,400 万円となった。

（単位：千円）

収入の部	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
学生生徒等納付金収入	3,005,255	2,993,836	3,233,725	3,370,866	3,354,585
手数料収入	22,208	33,632	33,625	32,779	32,303
寄付金収入	100,007	62,869	77,679	302,164	82,524
補助金収入	594,644	558,493	595,017	569,345	451,132
資産売却収入	400,068	12,343	112,850	1,090,555	919,365
付随事業・収益事業収入	454,766	465,305	513,595	516,128	510,373

収入の部	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
医療収入	1,800,960	1,788,993	1,783,549	1,890,607	2,013,107
受取利息・配当金収入	772,974	690,291	803,356	634,307	632,595
雑収入	171,327	236,383	255,380	204,202	191,277
借入金等収入	0	0	0	3,000,000	3,400,000
前受金収入	432,118	574,879	593,213	533,428	518,713
その他の収入	15,272,647	4,307,367	5,652,877	10,095,340	3,242,161
資金収入調整勘定	△ 843,769	△ 912,487	△ 1,066,408	△ 1,055,882	△ 1,014,098
前年度繰越支払資金	927,467	1,525,916	812,498	776,134	1,334,720
収入の部合計	23,110,672	12,337,820	13,400,956	21,959,973	15,668,757

支出の部	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
人件費支出	3,704,807	3,917,322	4,234,851	4,297,610	4,365,378
教育研究経費支出	1,532,845	1,638,811	1,519,205	1,686,472	1,656,440
管理経費支出	291,137	337,568	322,405	346,418	361,143
借入金等利息支出	0	0	0	0	12,025
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	851,009	1,607,476	124,183	4,138,161	3,833,751
設備関係支出	183,829	363,829	191,236	114,772	193,745
資産運用支出	14,893,893	3,708,071	6,312,851	9,942,757	4,501,953
その他の支出	502,689	380,037	431,804	518,398	435,827
資金支出調整勘定	△ 375,453	△ 427,792	△ 511,713	△ 419,335	△ 465,095
翌年度繰越支払資金	1,525,916	812,498	776,134	1,334,720	773,590
支出の部合計	23,110,672	12,337,820	13,400,956	21,959,973	15,668,757

（２）活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

令和元年度決算における教育活動資金収支差額は 1 億 7,700 万円、施設整備等活動資金収支差額は△39 億 5,500 万円、その他の活動資金収支差額は 32 億 1,700 万円となった。

（単位：千円）

科　目		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
教育活動による資金収支						
	教育活動資金収入計	6,110,799	6,098,072	6,422,384	6,713,909	6,607,434
	教育活動資金支出計	5,528,465	5,893,457	6,075,965	6,330,248	6,382,962
	差引	582,334	204,615	346,419	383,661	224,472
	調整勘定等	△ 92,989	112,071	69,080	△ 111,424	△ 47,913
	教育活動資金収支差額	489,345	316,686	415,499	272,237	176,559
施設整備等活動による資金収支						
	施設整備等活動資金収入計	8,423,911	2,547,239	2,538,643	9,272,180	1,325,151
	施設整備等活動資金支出計	8,989,241	3,577,355	2,915,837	13,380,001	5,327,346
	差引	△ 565,330	△ 1,030,116	△ 377,194	△ 4,107,821	△ 4,002,195
	調整勘定等	162,930	12,998	22,057	2,090	46,994
	施設整備等活動資金収支差額	△ 402,400	△ 1,017,118	△ 355,137	△ 4,105,731	△ 3,955,201
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）		86,945	△ 700,432	60,362	△ 3,833,494	△ 3,778,642

科　目		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
その他の活動による資金収支						
	その他の活動資金収入計	7,452,777	2,096,718	3,620,342	5,229,575	6,439,741
	その他の活動資金支出計	6,939,815	2,109,081	3,717,068	837,495	3,221,328
	差引	512,962	△ 12,363	△ 96,726	4,392,080	3,218,413
	調整勘定等	△ 1,458	△ 623	0	0	△ 901
	その他の活動資金収支差額	511,504	△ 12,986	△ 96,726	4,392,080	3,217,512
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）		598,449	△ 713,418	△ 36,364	558,586	△ 561,130
前年度繰越支払資金		927,467	1,525,916	812,498	776,134	1,334,720
翌年度繰越支払資金		1,525,916	812,498	776,134	1,334,720	773,590

（３）財務比率の経年比較

比率名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
教育活動資金収支差額比率	8.0%	5.2%	6.5%	4.1%	2.7%

３）事業活動収支計算書関係

（１）事業活動収支計算書の状況と経年比較

令和元年度決算における事業活動収入は73億1,500万円、事業活動支出は72億1,600万円となり、基本金組入前当年度収支差額は 9,900 万円となった。この額から基本金組入額合計 4 億9,800万円を差し引いた当年度収支差額は△3億9,900万円となり、これに前年度繰越収支差額△8億2,400万円と基本金取崩額1,300万円を加えた翌年度繰越収支差額は△12億1,000万円となった。

（単位：千円）

科　目		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	3,005,255	2,993,836	3,233,725	3,370,866	3,354,585
	手数料	22,208	33,632	33,625	32,779	32,303
	寄付金	105,150	68,539	93,858	146,359	92,553
	経常費等補助金	558,950	524,331	528,077	569,345	427,211
	付随事業収入	454,766	465,305	513,595	516,128	510,373
	医療収入	1,800,960	1,788,993	1,783,549	1,890,607	2,013,107
	雑収入	174,479	243,856	262,380	214,706	199,100
	教育活動収入計	6,121,768	6,118,492	6,448,809	6,740,790	6,629,232
	事業活動支出の部					
	人件費	3,702,812	3,907,636	4,172,390	4,310,131	4,530,894
	教育研究経費	2,121,471	2,216,197	2,154,951	2,311,191	2,247,591
	管理経費	320,160	372,760	363,146	388,209	403,470
	徴収不能額等	2,622	214	1,115	5,622	840
	教育活動支出計	6,147,065	6,496,807	6,691,602	7,015,153	7,182,795
	教育活動収支差額	△ 25,297	△ 378,315	△ 242,793	△ 274,363	△ 553,563

科　目		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	772,974	690,291	803,356	634,307	632,595
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	772,974	690,291	803,356	634,307	632,595
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	12,025
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	0	12,025
	教育活動外収支差額	772,974	690,291	803,356	634,307	620,570
経常収支差額		747,677	311,976	560,563	359,944	67,007
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	231	0	53,021	0
	その他の特別収入	50,554	51,438	86,558	196,209	53,728
	特別収入計	50,554	51,669	86,558	249,230	53,728
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	12,276	25,029	91,408	62,779	21,395
	その他の特別支出	916	245	5,298	253	0
	特別支出計	13,192	25,274	96,706	63,032	21,395
	特別収支差額	37,362	26,395	△ 10,148	186,198	32,333
基本金組入前当年度収支差額		785,039	338,371	550,415	546,142	99,340
基本金組入額合計		△ 1,347,233	△ 2,337,707	△ 3,053,983	△ 8,081,564	△ 498,340
当年度収支差額		△ 562,194	△ 1,999,336	△ 2,503,568	△ 7,535,422	△ 399,000
前年度繰越収支差額		196,945	△ 183,390	△ 2,182,726	△ 2,288,600	△ 824,022
基本金取崩額		181,859	0	2,397,694	9,000,000	12,777
翌年度繰越収支差額		△ 183,390	△ 2,182,726	△ 2,288,600	△ 824,022	△ 1,210,245

（参考）

事業活動収入計	6,945,296	6,860,452	7,338,723	7,624,327	7,315,555
事業活動支出計	6,160,257	6,522,081	6,788,308	7,078,185	7,216,215

（２）財務比率の経年比較

比率名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
人件費比率	53.7%	57.4%	57.5%	58.4%	62.4%
教育研究経費比率	30.8%	32.5%	29.7%	31.3%	31.0%
管理経費比率	4.6%	5.5%	5.0%	5.3%	5.6%
事業活動収支差額比率	11.3%	4.9%	7.5%	7.2%	1.4%
学生生徒等納付金比率	43.6%	44.0%	44.6%	45.7%	46.2%
経常収支差額比率	10.8%	4.6%	7.7%	4.9%	0.9%

２．その他

１）有価証券の状況

有価証券の状況は以下のとおりである。

（単位:円）

種　類	当年度（令和2年3月31日）		
	貸借対照表計上額	時　価	差　額
債券	46,897,181,800	49,179,352,000	2,282,170,200
株式	0	0	0
投資信託	0	0	0
貸付信託	0	0	0
その他	0	0	0
合　計	46,897,181,800	49,179,352,000	2,282,170,200
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	46,897,181,800		

２）借入金の状況

借入金の状況は以下のとおりである。

（単位:円）

借入先	期末残高	利　率	返済期限
日本私立学校振興・共済事業団	3,000,000,000	0.4100%	令和10年9月15日
西日本シティ銀行	3,400,000,000	0.2400%	令和12年3月31日
合　計	6,400,000,000		

３）学校債の状況

なし

４）寄付金の状況

寄付金の状況は以下のとおりである。

（単位:円）

科　目	金　額
特別寄付金	82,312,807
一般寄付金	210,795
合　計	82,523,602

５）補助金の状況

補助金の状況は以下のとおりである。

（単位:円）

科　目	金　額
私立大学等経常費補助金	332,710,000
私立学校施設整備費補助金	23,921,000
大学改革推進等補助金	16,001,000
臨床研修費等補助金	32,858,000
県その他補助金	45,642,332
合　計	451,132,332

６）収益事業の状況

なし

７）関連当事者との取引の状況

（１）関連当事者

記載すべき関連当事者との取引はない。

（２）出資会社

なし

８）学校法人間財務取引

なし

３．経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

令和元年度決算における主な収入では、学生生徒等納付金は開学 3 年目の福岡看護大学が学年進行による在籍学生数の増により 1 億 5,200 万円の増となったが、福岡歯科大学が入学定員未充足等による在籍学生数の減により 1 億 4,600 万円の減となり、前年度並みの 33 億 5,500 万円となった。補助金は経常費補助金の定員未充足学部に対する減額措置等により 1 億 1,800 万円減の 4 億 5,100 万円、医療収入は医科歯科総合病院の歯科収入の増により 1 億 2,300 万円増の 20 億 1,300 万円となり、経常収入（教育活動収入・教育活動外収入）は 72 億 6,200 万円となった。一方、主な支出では、人件費は退職給与引当金繰入額 3 億 400 万円を計上したこと等により 2 億 2,100 万円増の 45 億 3,100 万円となり、経常支出（教育活動支出・教育活動外支出）は 71 億 9,500 万円となった。以上の結果、学校法人の経常的な収支バランス（教育活動収支・教育活動外収支）を示す経常収支差額は 6,700 万円となったが、学校法人の本業である教育活動収支は△5 億 5,400 万円で、教育活動外収入の有価証券等の受取利息・配当金 6 億 3,300 万円によりプラスとなっている。

主な財務比率では、人件費比率 62.4%、教育研究経費比率 31.0%、管理経費比率 5.6%、経常収支差額比率 0.9%となった。

また、令和元年度の総資産は 689 億 6,100 万円となり、病院建設資金及び福岡歯科大学校舎建設資金として第 2 号基本金引当特定資産に 100 億 5,400 万円、教育研究の充実を目的として第 3 号基本金引当特定資産に 235 億 8,400 万円、減価償却資産の取替資金として減価償却引当特定資産に 90 億円など各種引当特定資産の積立を行っており、財政基盤の強化を図っている。

今後、収入面では、福岡歯科大学及び福岡医療短期大学における入学定員充足による安定した学生納付金の確保、補助金・寄付金等の外部資金の積極的な導入、医科歯科総合病院・口腔医療センターにおける医療収入の増収など財源の確保に努める。一方、支出面では、人件費については、人事計画に基づく人員配置及び人事考課制度の活用等により適正化を図り、その他の経常的な経費については、予算の効果的な執行及び不要不急の支出の抑制を図る。

本学園は、教育研究環境の向上及び将来的な施設、設備等の更新に伴う財源確保のため、一層の財政状況の改善を図り、永続的な維持・発展に向けて、安定した財政基盤の確立を目指す。

別表1　令和元年度研究業績（欧文）一覧

〔福岡歯科大学〕

1.総説（review含む）

※ 電子ジャーナルの場合、巻・号・ページは「-」で記載

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Phospholipase C-related catalytically inactive protein: A novel signaling molecule for modulating fat metabolism and energy expenditure.	Kanematsu T, Oue K, Okumura T, Harada K, Yamawaki Y, Asano S, Mizokami A, Irifune M, Hirata M	Journal of Oral Biosciences	61	2	65-72	2019	10.1016/j.job.2019.04.002
2	Smoking and periodontal microorganisms.	Hanioka T, Morita M, Yamamoto T, Inagaki K, Wang Pao-Li, Ito H, Morozumi T, Takeshita T, Suzuki N, Shigeishi H, Sugiyama M, Ohta K, Nagao T, Hanada N, Ojima M, Ogawa H	Japanese Dental Science Review	55	1	88-94	2019	10.1016/j.jdsr.2019.03.002
3	Induction and inhibition of oral malodor.	Suzuki N, Yoneda M, Takeshita T, Hirofuji T, Hanioka T	Molecular Oral Microbiology	34	3	85-96	2019	10.1111/omi.12259
4	The therapeutic potential of parathyroid hormone in dental and oral medicine.	Yamashita J	Oral Science International	17	1	3-14	2020	10.1002/osi2.1023
5	Effects of intermittent administration of parathyroid hormone and parathyroid hormone-related protein on fracture healing: a narrative review of animal and human studies.	Yamashita J, McCauley LK	JBMR Plus	3	12	e10250	2019	10.1002/jbm4.10250

2.原著

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Phospholipase C-related inactive protein type-1 deficiency affects anesthetic electroencephalogram activity induced by propofol and etomidate in mice	Furukawa T, Nikaido Y, Shimoyama S, Ogata Y, Kushikata T, Hirota K, Kanematsu T, Hirata M, Ueno S	Journal of Anesthesia	33	4	531-542	2019	10.1007/s00540-019-02663-z
2	Phospholipase C-related catalytically inactive protein regulates cytokinesis by protecting phosphatidylinositol 4,5-bisphosphate from metabolism in the cleavage furrow.	Asano S, Ikura Y, Nishimoto M, Yamawaki Y, Hamao K, Kamijo K, Hirata M, Kanematsu T	Scientific Reports	9	1	12729	2019	10.1038/s41598-019-49156-3
3	Oral dysesthesia associated with autistic traits: a retrospective chart review.	Uezato A, Toyofuku A, Umezaki Y, Nishikawa T	European Journal Of Oral Sciences	127	4	347-350	2019	10.1111/eos.12620
4	Comorbid depressive disorders and left-side dominant occlusal discomfort in patients with phantom bite syndrome.	Shinohara Y, Umezaki Y, Minami I, Watanabe M, Miura A, Mikutsuki L, Kawasaki K, Sugawara S, Trang TTH, Suga T, Watanabe T, Yoshikawa T, Takenoshita M, Motomura H, Toyofuku A	Journal of Oral Rehabilitation	47	1	36-41	2020	10.1111/joor.12872
5	Relationship between type D personality and dropout from dental treatment in middle-aged adults.	Kato T, Mizutani S, Umezaki Y, Sugiyama S, Naito T	Journal of Oral Science	61	2	264-269	2019	10.2334/josnusd.18-0068
6	Effect of interprofessional education on oral assessment performance of nursing students.	Haresaku S, Miyoshi M, Kubota K, Aoki H, Kajiwara E, Monji M, Naito T	Clinical and Experimental Dental Research	6	1	51-58	2020	10.1002/cre2.248
7	Association between oral candidiasis and bacterial pneumonia: a retrospective study.	Nakajima M, Umezaki Y, Takeda S, Yamaguchi M, Taniguchi N, Yoneda M, Hirofuji T, Sekitani H, Yamashita Y, Morita H	Oral Diseases	26	1	234-237	2020	10.1111/odi.13216
8	Development of an error-detection examination for conservative dentistry education.	Yoneda M, Yamada K, Izumi T, Matsuzaki E, Maruta M, Hatakeyama J, Morita H, Tsuzuki T, Anan H, Hirofuji T	Clinical and Experimental Dental Research	6	1	69-74	2020	10.1002/cre2.250
9	Factors associated with nurses' performance of oral assessments and dental referrals for hospital inpatients.	Haresaku S, Uchida S, Aoki H, Akinaga K, Yoshida R, Kubota K, Naito T	BMC Oral Health	20	-	68	2020	10.1186/s12903-020-1058-0
10	Enhanced junctional epithelial permeability in TRPV4-deficient mice.	Kitsuki T, Yoshimoto RU, Aijima R, Hatakeyama J, Cao AL, Zhang JQ, Ohsaki Y, Mori Y, Kido MA	Journal of Periodontal Research	55	1	51-60	2020	10.1111/jre.12685

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
11	Glyburide inhibits the bone resorption induced by traumatic occlusion in rats.	Arita Y, Yoshinaga Y, Kaneko T, Kawahara Y, Nakamura K, Ohgi K, Arita S, Ryu T, Takase M, Sakagami R	Journal of Periodontal Research	-	-	-	2020	10.1111/jre.12731
12	Preparation and biodegradation properties of DNA/poly-lysine complexes by FE-SEM.	Yamamoto N, Kawaguchi M, Ohgi K, Matsumoto A, Sakagami R	Journal of Oral Tissue Engineering	17	1	1-8	2019	10.11223/jarde.17.1
13	A study of the usefulness of implant superstructure production methods using optical impression systems and CAD/CAM techniques - targeting application during home visit dental treatment.	Taniguchi Y, Kakura K, Tsutsumi T, Isshi K, Morita H, Mizutani S, Tohara H, Kido H	Journal of Interdisciplinary Clinical Dentistry	1	1	-	2020	-
14	Rescue bisphosphonate treatment of alveolar bone improves extraction socket healing and reduces osteonecrosis in zoledronate-treated mice.	Hokugo A, Kanayama K, Sun S, Morinaga K, Sun Y, Wu Q, Sasaki H, Okawa H, Evans C, Ebetino FH, Lundy MW, Sadrerafi K, McKenna CE, Nishimura I	Bone	123	-	115-128	2019	10.1016/j.bone.2019.03.027
15	Shear bond strength of composite resin to poly-ether-ketone-ketone (PEKK).	Hamanaka I, Hamanaka M, Kawaguchi T, Sasaki H, Tashiro S, Taniguchi Y, Tsuzuki T, Takahashi Y	Journal of Fukuoka Dental College	45	2	63-73	2019	-
16	Bacterial-induced maternal interleukin 17A pathway promotes autistic-like behaviors in mouse offspring.	Yasumatsu K, Nagao J, Arita K, Narita Y, Tasaki S, Toyoda K, Ito S, Kido H, Tanaka Y	Experimental Animals	-	-	-	2020	10.1538/expanim.19-0156
17	Proliferation of Saos-2 and Ca9-22 cells on grooved and pillared titanium surfaces.	Kaga N, Akasaka T, Matsuura T, Yokoyama A, Yoshida Y	Bio-Medical Materials and Engineering	30	5-6	559-567	2020	10.3233/BME-191074
18	The reduced susceptibility of mouse keratinocytes to retinoic acid may be involved in the keratinization of oral and esophageal mucosal epithelium.	Miyazono S, Otani T, Ogata K, Kitagawa N, Iida H, Inai Y, Matsuura T, Inai T	Histochemistry and Cell Biology	-	-	-	2020	10.1007/s00418-020-01845-1
19	Establishment of a standardized cell culture system on acrylic resin.	Tsutsumi T, Tsuzuki T, Kajiya H, Goto K, Tashiro S, Maeshiba M	Journal of Fukuoka Dental College	45	2	75-83	2019	-
20	Use of digital technology to improve objective and reliable assessment in dental student simulation laboratories.	Miyazono S, Shinozaki Y, Sato H, Isshi K, Yamashita J	Journal of Dental Education	83	10	1224-1232	2019	10.21815/JDE.019.114
21	Immunohistochemical study of amelogenin binding proteins in an amelogenin point mutation mouse.	Otawa N, Matsuda Y, Takezaki M, Hatakeyama Y, Tamaoki S, Ishikawa H	International Journal of Morphology	37	2	522-532	2019	10.4067/S0717-95022019000200522
22	MLH1-mediated recruitment of FAN1 to chromatin for the induction of apoptosis triggered by O(6)-methylguanine.	Rikitake M, Fujikane R, Obayashi Y, Oka K, Ozaki M, Hidaka M	Genes to Cells	25	3	175-186	2020	10.1111/gtc.12748
23	Susceptibility of the Wnt/β-catenin pathway accelerates osteogenic differentiation of human periodontal ligament stem cell spheroids.	Toshimitsu T, Kajiya H, Yasunaga M, Maeshiba M, Fujisaki S, Miyaguchi N, Yamaguchi M, Maeda H, Kojima H, Ohno J	Journal of Hard Tissue Biology	28	2	121-128	2019	10.2485/jhtb.28.121
24	Three-dimensional spheroids of mesenchymal stem/stromal cells promote osteogenesis by activating stemness and Wnt/β-catenin.	Imamura A, Kajiya H, Fujisaki S, Maeshiba M, Yanagi T, Kojima H, Ohno J	Biochemical and Biophysical Research Communications	523	2	458-464	2020	10.1016/j.bbrc.2019.12.066
25	HMGA2 contributes to distant metastasis and poor prognosis by promoting angiogenesis in oral squamous cell carcinoma.	Sakata J, Hirosue A, Yoshida R ,Kawahara K,Matsuoka Y, Yamamoto T, Nakamoto M, Hirayama M, Takahashi N, Nakamura T, Arita H, Nakashima H, Nagata M, Hiraki A, Shinohara M, Nakayama H	International Journal of Molecular Sciences	20	10	2473	2019	10.3390/ijms20102473
26	FOXP3 lymphocyte status may predict the risk of malignant transformation in oral leukoplakia.	Sakata J, Yoshida R, Matsuoka Y, Kawahara K, Arita H, Nakashima H, Hirosue A, Naito H, Takeshita H, Kawaguchi S, Gohara S, NagaoY, Yamana K, Hiraki A, Nakashima H, Hirosue A, Naito H, Takeshita H, Kawaguchi S, Gohara S, Nagao Y, Yamana K, Hiraki A, Shinohara M, Ito T, Nakayama H	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology	32	1	33-39	2020	10.1016/j.ajoms.2019.06.005

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
27	An analysis of the dental patient safety incidents occurring in the oral and maxillofacial surgery department.	Anzai H, Sudo S, Obayashi Y, Mori S, Sasaki M, Katsumata Y, Yoshizumi J, Tanaka F, Yokoo Y, Nagashima K, Inoue Y, Yonezu H, Hashimoto K, Hiraki A, IKebe T	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology	-	-	-	2020	10.1016/j.ajoms.2019.11.004
28	Extracellular calcium stimulates osteogenic differentiation of human adipose-derived stem cells by enhancing bone morphogenetic protein-2 expression.	Yanai R, Tetsuo F, Ito S, Itsumi M, Yoshizumi J, Maki T, Mori Y, Kubota Y, Kajioka S	Cell Calcium	83	-	102058	2019	10.1016/j.ceca.2019.102058
29	Cisplatin-induced programmed cell death ligand-2 expression is associated with metastasis ability in oral squamous cell carcinoma.	Sudo S, Kajiya H, Okano S, Sasaki M, Katsumata Y, Ohno J, Ikebe T, Hiraki A, Okabe K	Cancer Science	-	-	-	2020	10.1111/cas.14336
30	Appropriate height of dental chairs for effective administration of chest compressions by female dentists.	Nogami K, Taniguchi S	Clinical and Experimental Dental Research	5	6	677-682	2019	10.1002/cre2.236
31	Kinetics of tear fluid proteins after endothelial keratoplasty and predictive factors for recovery from corneal haze.	Yawata N, Awate S, Liu YC, Woon K, Siak J, Kawano Y, Sonoda KH, Mehta JS, Yawata M	Journal of Clinical Medicine	9	1	63	2019	10.3390/jcm9010063
32	Both hypo- and hyperglycaemia are associated with increased fracture risk in Japanese people with type 2 diabetes: the Fukuoka diabetes registry.	Komorita Y, Iwase M, Fujii H, Ohkuma T, Ide H, Yoshinari M, Oku Y, Nakamura U, Kitazono T	Diabetic Medicine	-	-	-	2019	10.1111/dme.14142
33	Impact of hip fracture on all-cause mortality in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: the Fukuoka diabetes registry.	Komorita Y, Iwase M, Idewaki Y, Fujii H, Ohkuma T, Ide H, Jodai-Kitamura T, Yoshinari M, Murao-Kimura A, Oku Y, Nakamura U, Kitazono T	Journal of Diabetes Investigation	11	1	62-69	2020	10.1111/jdi.13076
34	Diabetes as a risk factor for heart failure in women and men: a systematic review and meta-analysis of 47 cohorts including 12 million individuals.	Ohkuma T, Komorita Y, Peters SAE, Woodward M	Diabetologia	62	9	1550-1560	2019	10.1007/s00125-019-4926-x
35	PRRT2 mutations in Japanese patients with benign infantile epilepsy and paroxysmal kinesigenic dyskinesia.	Okumura A, Shimojima K, Kurahashi H, Numoto S, Shimada S, Ishii A, Ohmori I, Takahashi S, Awaya T, Kubota T, Sakakibara T, Ishihara N, Hattori A, Torisu H, Tohyama J, Inoue T, Haibara A, Nishida T, Yuhara Y, Miya K, Tanaka R, Hirose S, Yamamoto T	Seizure	71	-	1-5	2019	10.1016/j.seizure.2019.05.017
36	Modified creatinine index and risk for long-term infection-related mortality in hemodialysis patients: ten-year outcomes of the Q-cohort study.	Arase H, Yamada S, Hiyamuta H, Taniguchi M, Tokumoto M, Tsuruya K, Nakano T, Kitazono T	Scientific Reports	10	1	1241	2020	10.1038/s41598-020-58181-6
37	The Incidence and associated factors of sudden death in patients on hemodialysis: 10-Year outcome of the Q-cohort study.	Hiyamuta H, Tanaka S, Taniguchi M, Tokumoto M, Fujisaki K, Nakano T, Tsuruya K, Kitazono T	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	-	-	-	2019	10.5551/jat.49833
38	C-reactive protein and incident hypertension in a worksite population of Japanese men.	Kansui Y, Matsumura K, Morinaga Y, Inoue M, Kiyohara K, Ohta Y, Goto K, Ohtsubo T, Ooboshi H, Kitazono T	Journal of Clinical Hypertension	21	4	524-532	2019	10.1111/jch.13510
39	Arterial spin labeling magnetic resonance imaging for differentiating acute ischemic stroke from epileptic disorders.	Kanazawa Y, Arakawa S, Shimogawa T, Hagiwara N, Haga S, Morioka T, Ooboshi H, Ago T, Kitazono T	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases	28	6	1684-1690	2019	10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2019.02.020
40	Early initiation of a factor Xa inhibitor can attenuate tissue repair and neurorestoration after middle cerebral artery occlusion.	Komori M, Ago T, Wakisaka Y, Nakamura K, Tachibana M, Yoshikawa Y, Shibahara T, Yamanaka K, Kuroda J, Kitazono T	Brain Research	1718	-	201-211	2019	10.1016/j.brainres.2019.05.020
41	Pericyte-mediated tissue repair through PDGFRβ promotes peri-infarct astrogliosis, oligodendrogenesis, and functional recovery after acute ischemic stroke.	Shibahara T, Ago T, Nakamura K, Tachibana M, Yoshikawa Y, Komori M, Yamanaka K, Wakisaka Y, Kitazono T	eNeuro	7	2	-	2020	10.1523/ENEURO.0474-19.2020
42	Dynamical bulk scaling limit of gaussian unitary ensembles and stochastic differential equation gaps.	Kawamoto Y, Osada H	Journal of Theoretical Probability	32	2	907–933	2019	10.1007/s10959-019-00913-0

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
43	Mild heat stress affects on the cell wall structure in candida albicans biofilm.	Ikezaki S, Cho t, Nagao J, Tasaki S, Yamaguchi M, Arita K, Yasumatsu K, Chibana H, Ikebe T, Tanaka Y	Medical Mycology Journal	60	2	29-37	2019	10.3314/mmj.19-00001
44	Oxidation resistance 1 prevents genome instability through maintenance of G2/M arrest in gamma-ray-irradiated cells.	Matsui A, Kobayashi J, Kanno SI, Hashiguchi K, Miyaji M, Yoshikawa Y, Yasui A, Zhang-Akayama QM	Journal of Radiation Research	61	1	1-13	2020	10.1093/jrr/rrz080
45	ROS control in human iPS cells reveals early events in spontaneous carcinogenesis.	Oka S, Hayashi M, Taguchi K, Hidaka M, Tsuzuki T, Sekiguchi M	Carcinogenesis	41	1	36-43	2019	10.1093/carcin/bgz081
46	Two ways of escaping from oxidative RNA damage: Selective degradation and cell death.	Ishii T, Sekiguchi M	DNA Repair	81	-	102666	2019	10.1016/j.dnarep.2019.102666
47	Expanded polyglutamine impairs normal nuclear distribution of fused in sarcoma and poly (rC)-binding protein 1 in Huntington's disease.	Mori S, Honda H, Ishii T, Yoshimura M, Sasagasako N, Suzuki SO, Taniwaki T, Iwaki T	Neuropathology	39	5	358-367	2019	10.1111/neup.12600
48	A DNA-binding domain in the C-terminal region of Cdt2 enhances the DNA synthesis-coupled CRL4Cdt2 ubiquitin ligase activity for Cdt1.	Mazian M, Suenaga N, Ishii T, Hayashi A, Shiomi Y, Nishitani H	Journal of Biochemistry	165	6	505-516	2019	10.1093/jb/mvz001
49	A novel synthetic approach for the calcium hydroxyapatite from the food products.	Grigoraviciute-Puroniene I, Zarkov A, Tsuru K, Ishikawa K, Kareiva A	Journal of Sol-Gel Science and Technology	91	1	63-71	2019	10.1007/s10971-019-05020-4
50	Characterization and thermal decomposition of synthetic carbonate apatite powders prepared using different alkali metal salts.	Maruta M, Arahira T, Tsuru K, Matsuya S	Dental Materials Journal	38	5	750-755	2019	10.4012/dmj.2018-213
51	Ozone-gas-mediated surface hydrophilization enhances the cell responses to titanium.	Sunarso, Toita R, Tsuru K, Ishikawa K	Materials Letters	261	-	-	2020	10.1016/j.matlet.2019.127168
52	Fabrication of porous carbonate apatite granules using microfiber and its histological evaluations in rabbit calvarial bone defects.	Akita K, Fukuda N, Kamada K, Kudoh K, Kurio N, Tsuru K, Ishikawa K, Miyamoto Y	Journal of Biomedical Materials Research Part A	108	3	709-721	2020	10.1002/jbm.a.36850
53	GLP-1 signaling is required for improvement of glucose tolerance by osteocalcin.	Mizokami A, Mukai S, Gao J, Kawakubo-Yasukochi T, Otani T, Takeuchi H, Jimi E, Hirata M	Journal of Endocrinology	244	2	285-296	2020	10.1530/JOE-19-0288
54	Hypoxia-induced HIF-1α and ZEB1 are critical for the malignant transformation of ameloblastoma via TGF-β-dependent EMT.	Yoshimoto S, Tanaka F, Morita H, Hiraki A, Hashimoto S	Cancer Medicine	8	18	7822–7832	2019	10.1002/cam4.2667
55	Non-transmissible MV vector with segmented RNA genome establishes different types of iPSCs from hematopoietic cells.	Hiramoto T, Tahara M, Liao J, Soda Y, Miura Y, Kurita R, Hamana H, Inoue K, Kohara H, Miyamoto S, Okano S, Yamaguchi Y, Oda Y, Ichiyanagi K, Toh H, Sasaki H, Kishi H, Ryo A, Muraguchi A, Takeda M, Tani K	Molecular Therapy	28	1	129-141	2020	10.1016/j.ymthe.2019.09.007
56	Dual usage of a stage-specific fluorescent reporter system based on a helper-dependent adenoviral vector to visualize osteogenic differentiation.	Sone T, Shin M, Ouchi T, Sasanuma H, Miyamoto A, Ohte S, Tsukamoto S, Nakanishi M, Okano H, Katagiri T, Mitani K	Scientific Reports	9	-	9705	2019	10.1038/s41598-019-46105-y
57	CTLA4-Ig directly inhibits osteoclastogenesis by interfering with intracellular calcium oscillations in bone marrow macrophages.	Okada H, Kajiya H, Omata Y, Matsumoto T, Sato Y, Kobayashi T, Nakamura S, Kaneko Y, Nakamura S, Koyama T, Sudo S, Shin M, Okamoto F, Watanabe H, Tachibana N, Hirose J, Saito T, Takai T, Matsumoto M, Nakamura M, Okabe K, Miyamoto T, Tanaka S	Journal of Bone and Mineral Research	34	9	1744-1752	2019	10.1002/jbmr.3754
58	SMARCAD1-mediated recruitment of the DNA mismatch repair protein MutLalpha to MutSalpha on damaged chromatin induces apoptosis in human cells.	Takeishi Y, Fujikane R, Rikitake M, Obayashi Y, Sekiguchi M, Hidaka M	Journal of Biological Chemistry	295	4	1056-1065	2020	10.1074/jbc.ra119.008854
59	Alternating differentiation and dedifferentiation between mature osteoblasts and osteocytes.	Sawa N, Fujimoto H, Sawa Y, Yamashita J	Scientific Reports	9	1	13842	2019	10.1038/s41598-019-50236-7

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
60	Clodronate-loaded liposome treatment has site-specific skeletal effects.	Michalski MN, Zweifler LE, Sinder BP, Koh AJ, Yamashita J, Roca H, McCauley LK	Journal of Dental Research	98	4	459-467	2019	10.1177/002203451882168 5
61	Phospholipase C-related catalytically inactive protein regulates lipopolysaccharide-induced hypothalamic inflammation-mediated anorexia in mice.	Yamawaki Y, Shirawachi S, Mizokami A, Nozaki K, Ito H, Asano S, Oue K, Aizawa H, Yamawaki S, Hirata M, Kanematsu T	Neurochemistry International	131	-	104563	2019	10.1016/j.neuint.2019.104563

3.症例報告

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Change of cerebral blood flow after a successful pharmacological treatment of phantom bite syndrome: A case report.	Umezaki Y, Tu TH T, Toriihara A, Sato Y, Naito T, Toyofuku A	Clinical Neuropharmacology	42	2	49-51	2019	10.1097/WNF.0000000000000328
2	Esthetic anterior overdenture restoration in a young patient with cleidocranial dysplasia: A case report.	Tsuzuki T, Sato T, Nagahara T, Tsutsumi T, Kagawa T, Kawaguchi T, Hase H, Uchida R, Takahashi Y	Journal of Fukuoka Dental College	45	1	11-16	2019	-
3	Ectopic junctional epithelium adhered to the buccal crown surface of an upper central incisor.	Nakamura M, Oka K, Harada H, Ogata K, Matsuo S, Rikitake M, Ohki S, Kumagai T, Kato Y, Baba A, Ozaki M	Pediatric Dental Journal	-	-	-	2020	10.1016/j.pdj.2019.11.002
4	An embolic stroke in a patient with PROC p.Lys193del.	Ueki K, Nakamura K, Wakisaka Y, Wada S, Yoshikawa Y, Matsumoto S, Hotta T, Kang D, Kitazono T, Ago T	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases	-	-	-	2020	10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2019.104597
5	Continuous professional oral health care intervention improves severe aspiration pneumonia.	Nawata W, Umezaki Y, Yamaguchi M, Nakajima M, Makino M, Yoneda M, Hirofuji T, Yamano T, Ooboshi H, Morita H	Case Reports in Dentistry	-	-	-	2019	10.1155/2019/4945921

〔福岡看護大学〕

1.総説（review含む）

※ 電子ジャーナルの場合、巻・号・ページは「-」で記載

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Characteristics and challenges in critical care nursing practice:A review.	Kamitani K, Miyabayashi I, Ura A, Iwanaga K	Medical bulletin of Fukuoka University	46	2	131-137	2019	-

2.原著

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Genetic deletion of Ca(v)3.2 T-type calcium channels abolishes H(2)S-dependent somatic and visceral pain signaling in C57BL/6 mice.	Matsui K, Tsubota M, Fukushi S, Koike N, Masuda H, Kasanami Y, Miyazaki T, Sekiguchi F, Ohkubo T, Yohida S, Mukai Y, Oita A,Takada M, Kawabata A	Journal of Pharmacological Sciences	140	3	310-312	2019	10.1016/j.jphs.2019.07.010
2	Effect of interprofessional education on oral assessment performance of nursing students.	Haresaku S, Miyoshi M, Kubota K, Aoki H, Kajiwara E, Monji M, Naito T	Clinical and Experimental Dental Research	6	1	51-58	2020	10.1002/cre2.248
3	Factors associated with nurses' performance of oral assessments and dental referrals for hospital inpatients.	Haresaku S, Uchida S, Aoki H, Akinaga K, Yoshida R, Kubota K, Naito T	BMC Oral Health	20	-	68	2020	10.1186/s12903-020-1058-0

〔福岡医療短期大学〕

1.原著

※ 電子ジャーナルの場合、巻・号・ページは「-」で記載

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Plasma phenotypes of protein S Lys196Glu and protein C Lys193del variants prevalent among young Japanese women.	Noguchi K, Nakazono E, Tsuda T, Jin X, Sata S, Miya M, Nakano S, Tsuda H	Blood Coagulation & Fibrinolysis	30	8	393–400	2019	10.1097/MBC.0000000000000854
2	Establishment of a standardized cell culture system on acrylic resin.	Tsutsumi T, Tsuzuki T, Kajiya H, Goto K, Tashiro S, Maeshiba M	Journal of Fukuoka Dental College	45	2	75-83	2019	-

別表２　　令和元年度 科学研究費助成事業決定状況

【福岡歯科大学】

（単位：千円）

区分 / 種類			平成30年度 申請件数	平成30年度 申請額	平成30年度 内定件数	平成30年度 内定額 直接経費	平成30年度 内定額 間接経費	平成30年度 内定額 計	令和元年度 申請件数	令和元年度 申請額	令和元年度 内定件数	令和元年度 内定額 直接経費	令和元年度 内定額 間接経費	令和元年度 内定額 計	前年度比較増減(R1-H30) 申請件数	前年度比較増減(R1-H30) 申請額	前年度比較増減(R1-H30) 内定件数	前年度比較増減(R1-H30) 内定額 直接経費	前年度比較増減(R1-H30) 内定額 間接経費	前年度比較増減(R1-H30) 内定額 計
文部科学省	新学術領域研究	新規	1	2,500	0	0	0	0	3	26,500	1	2,900	870	3,770	2	24,000	1	2,900	870	3,770
		継続	1	3,000	1	3,000	900	3,900	0	0	0	0	0	0	-1	-3,000	-1	-3,000	-900	0
	小計	新規	1	2,500	0	0	0	0	3	26,500	1	2,900	870	3,770	2	24,000	1	2,900	870	3,770
		継続	1	3,000	1	3,000	900	3,900	0	0	0	0	0	0	-1	-3,000	-1	-3,000	-900	-3,900
		文科省合計	2	5,500	1	3,000	900	3,900	3	26,500	1	2,900	870	3,770	1	21,000	0	-100	-30	-130
日本学術振興会	基盤研究(S)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	1	21,300	1	21,300	6,390	27,690	1	21,800	1	21,800	6,540	28,340	0	500	0	500	150	650
	基盤研究(A)	新規	0	0	0	0	0	0	1	10,000	0	0	0	0	1	10,000	0	0	0	0
		継続	1	10,400	1	10,400	3,120	13,520	1	11,100	1	11,100	3,330	14,430	0	700	0	700	210	910
	基盤研究(B)	新規	6	38,214	1	6,500	1,950	8,450	8	58,303	1	5,200	1,560	6,760	2	20,089	0	-1,300	-390	-1,690
		継続	2	6,800	2	6,800	2,040	8,840	2	7,800	2	7,800	2,340	10,140	0	1,000	0	1,000	300	1,300
	基盤研究(C)	新規	74	149,474	15	19,800	5,940	25,740	68	128,755	12	16,500	4,950	21,450	-6	-20,719	-3	-3,300	-990	-4,290
		継続	23	22,300	23	22,300	6,690	28,990	26	23,350	26	23,350	7,005	30,355	3	1,050	3	1,050	315	1,365
	挑戦的研究（開拓）	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	挑戦的研究（萌芽）	新規	8	20,570	2	5,500	1,650	7,150	8	20,477	0	0	0	0	0	-93	-2	-5,500	-1,650	-7,150
		継続	2	2,500	2	2,500	750	3,250	3	5,700	3	5,700	1,710	7,410	1	3,200	1	3,200	960	4,160
	若手研究	新規	36	73,067	10	13,600	4,080	17,680	39	73,397	9	11,700	3,510	15,210	3	330	-1	-1,900	-570	-2,470
		継続	11	11,300	11	11,300	3,390	14,690	11	11,800	11	11,800	3,540	15,340	0	500	0	500	150	650
	研究活動スタート支援	新規	18	24,460	5	6,000	1,800	7,800	14	17,569	2	2,200	660	2,860	-4	-6,891	-3	-3,800	-1,140	-4,940
		継続	3	2,400	3	2,400	720	3,120	5	5,500	5	5,500	1,650	7,150	2	3,100	2	3,100	930	4,030
	特別研究員奨励費	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	新規	142	305,785	33	51,400	15,420	66,820	138	308,501	24	35,600	10,680	46,280	-4	2,716	-9	-15,800	-4,740	-20,540
		継続	43	77,000	43	77,000	23,100	100,100	49	87,050	49	87,050	26,115	113,165	6	10,050	6	10,050	3,015	13,065
		学振合計	185	382,785	76	128,400	38,520	166,920	187	395,551	73	122,650	36,795	159,445	2	12,766	-3	-5,750	-1,725	-7,475
合計		新規	143	308,285	33	51,400	15,420	66,820	141	335,001	25	38,500	11,550	50,050	-2	26,716	-8	-12,900	-3,870	-16,770
		継続	44	80,000	44	80,000	24,000	104,000	49	87,050	49	87,050	26,115	113,165	5	7,050	5	7,050	2,115	9,165
		総合計	187	388,285	77	131,400	39,420	170,820	190	422,051	74	125,550	37,665	163,215	3	33,766	-3	-5,850	-1,755	-7,605

別表３　　令和元年度 科学研究費助成事業決定状況

【福岡看護大学】　　（単位：千円）

区分 種類			平成30年度 申請件数	平成30年度 申請額	平成30年度 内定件数	平成30年度 内定額 直接経費	平成30年度 内定額 間接経費	平成30年度 内定額 計	令和元年度 申請件数	令和元年度 申請額	令和元年度 内定件数	令和元年度 内定額 直接経費	令和元年度 内定額 間接経費	令和元年度 内定額 計	前年度比較増減(R1-H30) 申請件数	前年度比較増減(R1-H30) 申請額	前年度比較増減(R1-H30) 内定件数	前年度比較増減(R1-H30) 内定額 直接経費	前年度比較増減(R1-H30) 内定額 間接経費	前年度比較増減(R1-H30) 内定額 計
文部科学省	新学術領域研究	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		文科省合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本学術振興会	基盤研究(S)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(A)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(B)	新規	1	7,260	0	0	0	0	2	21,722	0	0	0	0	1	14,462	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(C)	新規	18	25,310	4	3,600	1,080	4,680	24	46,396	6	7,800	2,340	10,140	6	21,086	2	4,200	1,260	5,460
		継続	4	3,500	4	3,500	1,050	4,550	6	4,900	6	4,900	1,470	6,370	2	1,400	2	1,400	420	1,820
	挑戦的研究（開拓）	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	挑戦的研究（萌芽）	新規	0	0	0	0	0	0	2	6,124	0	0	0	0	2	6,124	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	若手研究	新規	5	7,329	0	0	0	0	5	10,207	3	3,500	1,050	4,550	0	2,878	3	3,500	1,050	4,550
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	研究活動スタート支援	新規	6	8,964	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-6	-8,964	0	0	0	0
		継続	1	1,000	1	1,000	300	1,300	0	0	0	0	0	0	-1	-1,000	-1	-1,000	-300	-1,300
	特別研究員奨励費	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	新規	30	48,863	4	3,600	1,080	4,680	33	84,449	9	11,300	3,390	14,690	3	35,586	5	7,700	2,310	10,010
		継続	5	4,500	5	4,500	1,350	5,850	6	4,900	6	4,900	1,470	6,370	1	400	1	400	120	520
		学振合計	35	53,363	9	8,100	2,430	10,530	39	89,349	15	16,200	4,860	21,060	4	35,986	6	8,100	2,430	10,530
合計		新規	30	48,863	4	3,600	1,080	4,680	33	84,449	9	11,300	3,390	14,690	3	35,586	5	7,700	2,310	10,010
		継続	5	4,500	5	4,500	1,350	5,850	6	4,900	6	4,900	1,470	6,370	1	400	1	400	120	520
		総合計	35	53,363	9	8,100	2,430	10,530	39	89,349	15	16,200	4,860	21,060	4	35,986	6	8,100	2,430	10,530

別表４　　令和元年度 科学研究費助成事業決定状況

【福岡医療短期大学】

（単位：千円）

区分 種類			平成30年度 申請件数	申請額	内定件数	内定額 直接経費	間接経費	計	令和元年度 申請件数	申請額	内定件数	内定額 直接経費	間接経費	計	前年度比較増減(R1-H30) 申請件数	申請額	内定件数	内定額 直接経費	間接経費	計
文部科学省	新学術領域研究	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		文科省合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本学術振興会	基盤研究(S)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(A)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(B)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(C)	新規	5	9,332	0	0	0	0	4	8,096	0	0	0	0	-1	-1,236	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	挑戦的研究（開拓）	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	挑戦的研究（萌芽）	新規	4	5,715	0	0	0	0	10	14,841	1	1,600	480	2,080	6	9,126	1	1,600	480	2,080
		継続	2	1,100	2	1,100	330	1,430	1	900	1	900	270	1,170	-1	-200	-1	-200	-60	-260
	若手研究	新規	5	6,658	0	0	0	0	1	830	0	0	0	0	-4	-5,828	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	研究活動スタート支援	新規	3	3,662	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-3	-3,662	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特別研究員奨励費	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	新規	17	25,367	0	0	0	0	15	23,767	1	1,600	480	2,080	-2	-1,600	1	1,600	480	2,080
		継続	2	1,100	2	1,100	330	1,430	1	900	1	900	270	1,170	-1	-200	-1	-200	-60	-260
		学振合計	19	26,467	2	1,100	330	1,430	16	24,667	2	2,500	750	3,250	-3	-1,800	0	1,400	420	1,820
合計		新規	17	25,367	0	0	0	0	15	23,767	1	1,600	480	2,080	-2	-1,600	1	1,600	480	2,080
		継続	2	1,100	2	1,100	330	1,430	1	900	1	900	270	1,170	-1	-200	-1	-200	-60	-260
		総合計	19	26,467	2	1,100	330	1,430	16	24,667	2	2,500	750	3,250	-3	-1,800	0	1,400	420	1,820

別表５　令和元年度地域貢献一覧表

実施事業	内　　容
運動場、テニスコート、体育館の開放	地域のソフトボールチーム、野球チーム、子供ラグビークラブ等に対し、体育施設の開放を行った（グラウンド 3 施設 97 日）。
公園清掃及びリハビリ体操等指導	田新町が町内行事として月 1 回実施している田村北公園の清掃に介護老人保健施設等の職員が毎月 2～3 名で参加し、地域との交流を深めるとともに、清掃後、理学療法士等によるリハビリ体操等の指導を行った。
福岡医療短期大学教員ボランティア活動	地域交流並びに地域活性化ボランティア活動の取り組みとして、キャンパス内のさくら館において定期的に開催されている地元田新町老人会「親和会」の集いに短大教員並びに専攻科学生が担当を決めて参加し、情報提供を行っている。令和元年度は計 2 回参加した。
地下鉄マナーアップキャンペーン	福岡市交通局主催のマナーアップキャンペーンに福岡医療短期大学保健福祉学科の学生がボランティア活動として乗車マナーアップを呼びかけた。
学園祭での交流	学園祭イベント会場に、近郊の地域子供会で組織するダンスチーム（田村ジュニアダンス、スマイルキッズ田村、Dance Art’s SHIKATA）や地域の太鼓チーム、近隣大学の大学祭実行委員会、認知症啓発イベント（近隣介護事業所の医療介護職員等参加）のゲスト出演・演奏を依頼し、学生、教職員との年齢職業を越えた交流の場を創出した。また、地域団体による模擬店も出店され、食を通じた文化交流も図ることができた。
地域行事に学生ボランティアが参加	田村校区自治協議会主催の「校区夏祭り」「タムランピック 2019」、星の原団地自治会主催の「星の原子ども食堂」、野芥校区社会福祉協議会主催の「つくって食べよう土曜昼」に福岡歯科大学、福岡看護大学と福岡医療短期大学の学生ボランティアが参加し、地域住民と交流を深めた。

地域カフェの共催	地域カフェ「かふぇもりのいえ」を、月に 1 回の頻度で、社会福祉法人学而会サンシャインプラザと共に主催している。本年度は新型コロナウイルス感染拡大のため中止した 1 回を除き、11 回開催し、のべ 1,231 名が参加した。共催団体は、田村公民館、田村校区自治協議会、田村校区社会福祉協議会、早良区社会福祉協議会である。毎回福岡歯科大学、福岡看護大学、福岡医療短期大学の教員ならびに学生ボランティアが参加し、健康講座、歯科無料相談、介護無料相談などを通じて健康情報の普及に努めたほか、地域住民との交流を深めた。
中学・高校の職業教育支援	中学校 2 年次「職業体験」3 校 19 名、3 年次「上級学校訪問」3 校 146 名、高校「職業体験」生徒 2 校 106 名を受け入れ、福岡歯科大学、福岡看護大学、福岡医療短期大学の教職員で分担して講義実習、施設見学等を行ない、歯科医、看護師、保健師、歯科衛生士、介護福祉士の職業の概要や養成課程の詳細についての理解をはかった。

別表６　令和元年度公開講座一覧表

１）一般市民対象のもの

名　称	開催日・会場	テーマ・参加人員
出前講座	平成 31 年 4 月から 令和 2 年 3 月まで （市内公民館、小学校等）	本学教職員を市内公民館、地域高齢者会合（社会福祉協議会「ふれあいサロン」）、福岡市子育て支援施設（子どもプラザ）、小学校などに派遣し、一般市民を対象に、要望に合わせたテーマの講演を 48 回行い、合計 1,196 名の参加者に健康情報を提供した。
私立大学研究ブランディング事業 社会的アプローチ	平成 31 年 4 月 20 日～令和元年 8 月 17 日 令和元年 8 月 17 日 （UR 星の原団地集会所）	星の原カフェ　整形外科相談（井上教授）計 5 回、参加者のべ 15 名 星の原健康アカデミー事業説明会・ニーズ調査（アンケート）
にこにこスロージョギング with ウォーキング 2019	令和元年 4 月 21 日 （福岡大学 第二記念会堂、 陸上競技場）	一般市民を対象にスロージョギングやウォーキングを実施した。 （地下鉄七隈線沿線 三大学連絡協議会主催） 参加者 61 名
中学高校「職業体験」・「上級学校訪問」教育支援	令和元年 6 月 6 日～11 月 7 日 （福岡歯科大学、福岡看護大学、福岡医療短期大学）	「職業体験」「上級学校訪問」プログラムの 2 年次、3 年次中学校、２年次高校生徒を受け入れ、歯科医、看護師、保健師、歯科衛生士、介護福祉士の職業の概要や養成課程の詳細についての講義実習を、三大学の教職員で分担して行なった。 参加生徒数 271 名（福岡市立中学校 4 校、糸島市立中学校 1 校、私立中学校 1 校、私立高校 2 校）
栄養クリニック 健康 FESTIVAL 2019	令和元年 6 月 8 日 （中村学園大学 栄養クリニック）	一般市民を対象に健康度測定コーナー、健康相談、運動教室、ランチョンセミナー等を実施した。 （地下鉄七隈線沿線 三大学連絡協議会主催） 参加者　約 100 名
糸島市民の歯の健康のつどい	令和元年 6 月 8 日 （糸島市健康保健センター）	一般市民 59 名を対象に口腔がん検診を実施した。（糸島市主催） 歯科医師 2 名派遣 参加者　約 100 名

第45回福岡市民の健康を口と歯の健康から守る	令和元年6月9日 （福岡県歯科医師会館）	一般市民を対象に歯の健康相談、簡易的な歯科検診等を実施した。 （福岡市歯科医師会主催） 歯科医師11名、歯科衛生士2名派遣 参加者　約100名
福岡歯科大学 公開講座	令和元年8月31日 ～令和2年1月25日 （木の葉モール橋本 1階会議室）	医科歯科総合病院健康講座 ・第1回 「“おなか”の病気の予防と治療」 参加者35名 ・第2回 「知っておきたい乳がんのお話」「高齢者の難聴－補聴器を使うと良いのはどんな人？－」「皮膚と口のアレルギー症状」参加者33名 ・第3回 「肩・腰・ひざの痛みの原因と治療法」「肩・腰・ひざの痛みの予防」参加者69名
福岡看護大学 公開講座	令和元年9月5日 （福岡看護大学 1階 101講義室）	「今から始める肺炎と慢性閉塞性肺疾患の予防」 ① 講演「肺炎を予防するために～今からできることを一緒に考えましょう！～」 ② 講演「あなたの息切れ、慢性閉塞性肺疾患ではないですか？日常でできる呼吸ケアについて」 参加者130名
福岡医療短期大学 公開講座	令和元年9月29日 （福岡医療短期大学 308教室）	テーマ「口腔がんを考える」 ① 基調講演「知っていますか　お口の“がん”」 ② 教育講演「舌がんの診断と治療」 ③ 教育講演「口腔がん患者を支える歯科衛生士」 参加者111名
早良区健康まつり	令和元年10月10日 （早良区保健センター）	一般市民を対象に、口腔がん検診（100名）、唾液を使った歯周病検査（81名）を実施した。 （早良区地域保健福祉課主催） 歯科医師2名派遣 参加者　約100名
福岡未来創造プラットフォームリカレント教育プログラム （一般市民対象公開講座）	令和元年10月17日～11月14日 （福岡市中央市民センター会議室）	福岡未来創造プラットフォーム テーマ「子どもの貧困を科学する」 参加者60名 教職員1名が企画段階から参画し、全回に運営担当スタッフとして、また10月31日実施講演「心と身体からみる子どもの貧困」講師として参加した。

「健康まるごと 福岡学園」	令和元年 10 月 19 日 ～20 日 （福岡学園）	1.からだの科学展 2.講演会「生活習慣病と認知症：久山町研究でわかってきたこと」 3.医科ミニ講座 4.歯科無料相談 5.看護大企画「看護のせかい」 6.短大企画「口から始める介護予防」 7.介護施設見学・介護無料相談 各イベント参加者合計 1,503 名
令和元年度 地下鉄七隈線沿線 3 大学合同 シンポジウム	令和元年 10 月 27 日 （福岡大学病院 福大メディカルホール）	メインテーマ 「アンチエイジングの今」 第一部講演、第二部公開討論（参加者からの質問に回答する形式）。 本学、福岡大学、中村学園大学 合同開催。 参加者 149 名
市民啓発講演会	令和元年 11 月 10 日 （西新パレス）	教職員 1 名講師派遣 演題「笑って楽しく！オーラルフレイル予防」（早良区医師会主催） 参加者　約 100 名
UR Community College in 星の原 健康ミニ講座 （UR 星の原団地住民対象健康教育公開講座）	令和元年 11 月 21 日～令和 2 年 2 月 8 日（計 4 回） （UR 星の原団地集会所）	ミニ講座「食事の時のムセ・食べこぼしを防ぐためには」、「今日から始める認知症予防」、「おいしく食べる・死ぬまで食べる」、「高齢者の靴の選び方」 体操教室「筋肉を蓄えるには」、「飲み込み体操」 参加者のべ 150 名

２）医療介護従事者対象のもの

名称	開催日・会場	テーマ・参加人員
平成 31 年度 福岡歯科大学 臨床セミナー	平成 31 年 4 月から 令和 2 年 3 月まで （福岡歯科大学 本館 5 階 504 講義室）	医療関係者を対象に通算 23 回実施した。 参加者延べ 736 名 (臨床研修歯科医を含む)
大学院特別講義	平成 31 年 4 月 10 日 （福岡歯科大学 本館 8 階 801 講義室）	リバプール大学 Phillip Smith 氏による講義が行われた。テーマ「口唇口蓋裂症例での保存修復歯科治療」
摂食嚥下リハビリテーションに役立つ知識 （生涯研修）	令和元年 7 月 7 日 （福岡歯科大学 口腔医療センター セミナー室）	医師と歯科医師が連携して行う講義形式の研修。 参加者 16 名
令和元年度多職種連携研修会	令和元年 8 月 28 日 （ももちパレス）	講師派遣 演題「民官学連携によるオーラルフレイル予防事業の展開」(主催早良区医師会) 医師、歯科医師、歯科衛生士、看護師、理学療法士、言語聴覚士、介護福祉士等参加者 92 名

スプリント治療実践セミナー（生涯研修）	令和元年 9 月 1 日（福岡歯科大学 口腔医療センター セミナー室）	顎関節症の治療を実践的に学べる研修。 参加者 7 名
福岡医療短期大学口腔介護スキルアップ講座	令和元年 10 月 26 日 令和元年 11 月 2 日 （福岡医療短期大学）	「口腔機能低下症～オーラルフレイル　診断から対応まで～」 講演と実習を組み合わせた実践的に学べる研修 参加者 20 名
スケーリング・ルートプレーニングセミナー（生涯研修）	令和元年 11 月 16 日（福岡歯科大学 口腔医療センター セミナー室）	SRP の学術的背景と臨床的効果について実践的に学べる講義と実習を取り入れた研修。 参加者 24 名
福岡歯科大学医科歯科総合病院連携の会（連携医療機関の医療従事者対象リカレント教育プログラム）	令和元年 11 月 21 日（福岡歯科大学講堂）	症例報告 講演１「歯科処置中に消化管および気道に落下した材料・器具への対応と対策」 講演２「高齢者によく見られる口腔疾患とその対応」 参加者 51 名
歯科組織再生セミナー（生涯研修）	令和元年 12 月 8 日（福岡歯科大学 口腔医療センター セミナー室）	新しい歯周組織再生剤と歯科用インプラントに使用可能な人工骨について学べる研修。 参加者 7 名
福岡歯科大学学会総会特別講演	令和元年 12 月 15 日（福岡歯科大学 本館 9 階 講堂）	メインテーマ 「口腔機能の獲得と改善」 私立大学研究ブランディング事業報告会、基調講演、5 名のシンポジストによるシンポジウム。 参加者 203 名
睡眠時無呼吸マウスピース治療実践セミナー（生涯研修）	令和 2 年 1 月 25 日（福岡歯科大学 口腔医療センター セミナー室）	SAS の病態を理解することと一般的な固定式のマウスピースの製作について学べる研修。 参加者 22 名
口腔インプラント初級講習会（生涯研修）	令和 2 年 2 月 11 日（福岡歯科大学 本館 4 階 実習室）	インプラント治療についての実習を多く取り入れた実践的研修。 参加者 26 名
見逃さないぞ、口腔がん！鑑別診断セミナー（生涯研修）	令和 2 年 2 月 29 日（福岡歯科大学 口腔医療センター セミナー室）	口腔粘膜疾患の鑑別診断、細胞診の方法と解釈、検査法、口腔がんの特徴と治療を学べる研修。 参加者 9 名
第 6 世代の NiTi File を用いた根管形成法の実際（生涯研修）	令和 2 年 3 月 15 日（福岡歯科大学 口腔医療センター セミナー室）	歯内治療の新たなテクニックを実践的に学べる研修。 参加者 9 名

別表7　令和元年度 海外研修派遣一覧表

第3種海外研修派遣実績一覧表　　福岡歯科大学

所属	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
成長発達歯学講座	教授	小島　寛	学会発表	台湾（高雄）	自：H31.04.11	至：H31.04.14
成長発達歯学講座	医員	中嶋　真理子	学会発表	台湾（高雄）	自：H31.04.11	至：H31.04.14
成長発達歯学講座	助教	尾崎　茜	学会発表	台湾（高雄）	自：H31.04.11	至：H31.04.14
成長発達歯学講座	教授	小島　寛	学生引率	カナダ（バンクーバー）	自：H31.04.21	至：H31.04.28
機能生物化学講座	教授	田中　芳彦	学生引率	カナダ（バンクーバー）	自：H31.04.21	至：H31.04.28
口腔治療学講座	教授	坂上　竜資	学生引率	イギリス（リバプール）	自：H31.04.21	至：H31.04.28
歯科医療工学講座	教授	都留　寛治	学生引率	イギリス（リバプール）	自：H31.04.21	至：H31.04.28
成長発達歯学講座	准教授	岡　暁子	引率	カナダ（バンクーバー）	自：H31.04.22	至：H31.04.26
総合歯科学講座	教授	内藤　徹	講演	韓国（ソウル）	自：R01.05.09	至：R01.05.12
	客員教授	平田　雅人	学会発表	アメリカ（サンフランシスコ）	自：R01.06.06	至：R01.06.13
成長発達歯学講座	准教授	梶井　貴史	学会発表	フランス（ニース）	自：R01.06.16	至：R01.06.24
高齢者歯科学講座	大学院生	江頭　留依	学会発表	カナダ（バンクーバー）	自：R01.06.18	至：R01.06.23
高齢者歯科学講座	助教	梅崎　陽二朗	学会発表	カナダ（バンクーバー）	自：R01.06.18	至：R01.06.23
口腔保健学講座	教授	埴岡　隆	学会発表	カナダ（バンクーバー）	自：R01.06.19	至：R01.06.24
診断全身管理学講座	教授	湯浅　賢治	参加・意見交換	カナダ（バンクーバー）	自：R01.06.19	至：R01.06.24
咬合修復学講座	教授	城戸　寛史	学会発表	スペイン（マドリード）	自：R01.06.26	至：R01.07.01
成長発達歯学講座	教授	尾崎　正雄	学会発表	メキシコ（カンクーン）	自：R01.07.02	至：R01.07.08
咬合修復学講座	教授	城戸　寛史	学会発表	カナダ（バンフ）	自：R01.08.07	至：R01.08.12
咬合修復学講座	講師	加倉　加恵	学会発表	カナダ（バンフ）	自：R01.08.07	至：R01.08.12
成長発達歯学講座	准教授	岡　暁子	学会発表	中国（成都）	自：R01.08.16	至：R01.08.19
生体構造学講座	助教	緒方　佳代子	学会発表	中国（成都）	自：R01.08.16	至：R01.08.19
	客員教授	平田　雅人	学会発表	韓国（ソウル）	自：R01.08.29	至：R01.09.01
総合歯科学講座	助教	山口　真広	その他(国際支援ボランティア)	ﾌｨﾘﾋﾟﾝ（ｲｻﾞﾍﾞﾗ州ｷﾞﾊﾝ村）	自：R01.09.16	至：R01.09.23
成長発達歯学講座	助教	髙良　憲洋	その他(国際支援ボランティア)	ﾌｨﾘﾋﾟﾝ（ｲｻﾞﾍﾞﾗ州ｷﾞﾊﾝ村）	自：R01.09.16	至：R01.09.23
咬合修復学講座	教授	城戸　寛史	学会・講演	中国（青島）	自：R01.09.25	至：R01.09.28
成長発達歯学講座	教授	玉置　幸雄	学会・講演	韓国（ソウル）	自：R01.10.02	至：R01.10.04
総合医学講座	助教	原　雅俊	学会発表	アメリカ（ワシントン）	自：R01.11.06	至：R01.11.11
総合医学講座	准教授	徳本　正憲	学会発表	アメリカ（ワシントン）	自：R01.11.06	至：R01.11.11
口腔保健学講座	講師	河本　陽介	研究	フランス（マルセイユ）	自：R01.10.09	至：R01.10.29
総合歯科学講座	准教授	森田　浩光	学会発表	アメリカ（テキサス）	自：R01.11.12	至：R01.11.18
総合歯科学講座	大学院生	中島　正人	学会発表	アメリカ（テキサス）	自：R01.11.12	至：R01.11.18
高齢者歯科学講座	助教	梅崎　陽二朗	学会発表	アメリカ（オースティン）	自：R01.11.12	至：R01.11.18
口腔医学研究センター	客員教授	平田　雅人	学会(出席・参加)	オーストラリア（ブリスベン）	自：R01.11.26	至：R01.12.01
口腔保健学講座	教授	埴岡　隆	学会発表	オーストラリア（ブリスベン）	自：R01.11.26	至：R01.12.01
成長発達歯学講座	助教	髙良　憲洋	学会発表	オーストラリア（ブリスベン）	自：R01.11.26	至：R01.12.02
成長発達歯学講座	助教	藤田　隆寛	学会発表	オーストラリア（ブリスベン）	自：R01.11.26	至：R01.12.02
成長発達歯学講座	医員	梶原　弘一郎	学会発表	オーストラリア（ブリスベン）	自：R01.11.26	至：R01.12.02
成長発達歯学講座	大学院生	三宅　佑宜	学会発表	台湾（桃園）	自：R01.12.05	至：R01.12.08
成長発達歯学講座	医員	石井　太郎	学会参加	台湾（桃園）	自：R01.12.05	至：R01.12.08
咬合修復学講座	准教授	川口　智弘	研究打ち合わせ	フィンランド（トゥルク）	自：R02.02.03	至：R02.02.09

㊟第3種海外研修派遣：1カ月以内視察、調査、研究、学会参加等

第3種海外研修派遣実績一覧表　　福岡看護大学

所属	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
福岡看護大学	教授	岩本　利恵	研究発表	イギリス（ロンドン）	自：R01.07.18	至：R01.07.25
福岡看護大学	助教	吉田　理恵	研究発表	イギリス（ロンドン）	自：R01.07.18	至：R01.07.25
福岡看護大学	准教授	大城　知子	研究発表	イギリス（ロンドン）	自：R01.07.18	至：R01.07.29
福岡看護大学	教授	宮園　真美	研究発表	台北	自：R01.10.24	至：R01.10.26
福岡看護大学	助手	山中　富	研究発表	台北	自：R01.10.24	至：R01.10.26

㊟第3種海外研修派遣：1カ月以内視察、調査、研究、学会参加等

第3種海外研修派遣実績一覧表　　福岡医療短期大学

所属	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
歯　科　衛　生　学　科	教授	泉　　喜和子	専攻科学生引率	アメリカ（カリフォルニア州）	自：R1.10.15	至：R1.10.25

㊟第3種海外研修派遣：1カ月以内視察、調査、研究、学会参加等

別表８　　令和元年度　外部研修等受講一覧表

所属	受講日	研　修　等　名	場 所	参加者
企画課	5/31	ファシリテーション研修	九大伊都地区	堀　　美穂
	8/9	令和元年度広報担当者協議会	東京都	谷　賢太朗
	9/17	私立大学職員の新人研修	福岡市	谷川　陽介
総務課	4/16	大学基準協会大学評価実務説明会	西宮市	和才　広輝
	4/24	大学基準協会大学評価実務説明会	東京都	石橋　慶憲
	5/31	ファシリテーション研修	九大伊都地区	藤田　淑乃
	6/15	実験動物管理者の教育訓練	福岡市	和才　広輝
	6/21	私立大学等経常費補助金説明会	福岡市	田島　大寛
	6/21	私立大学等経常費補助金説明会	福岡市	飯尾　寛人
	6/21	私立大学等経常費補助金説明会	福岡市	和才　広輝
	8/28	人権・同和問題公正採用選考人権啓発推進員研修	福岡市	石橋　慶憲
	8/30	給与実務研修会	東京都	田島　大寛
	8/30	給与実務研修会	東京都	飯尾　寛人
	9/9	令和元年度科学研究費助成事業説明会	福岡市	行弘　智美
	9/13	職場のハラスメント対策・対応セミナー	福岡市	田島　大寛
	9/13	職場のハラスメント対策・対応セミナー	福岡市	石橋　慶憲
	9/17	私立大学職員の新人研修	福岡市	小湊　洋輝
	9/17	私立大学職員の新人研修	福岡市	安武　宏高
	9/25	令和元年度大学等向け安全保障貿易管理説明会	大阪市	和才　広輝
	10/2-10/3	令和元年度事務局長相当者研修会	北九州市	石橋　慶憲
	10/24	いわゆる同一労働同一賃金と企業の対応	福岡市	飯尾　寛人
	11/22	人事労務情報交換会	福岡市	田島　大寛
	11/22	人事労務情報交換会	福岡市	飯尾　寛人
	11/22	教育学術充実協議会	東京都	田島　大寛
	11/28-11/29	日本私立歯科大学協会 第14回事務職員研修	東京都	藤田　淑乃
財務課	6/21	私立大学等経常費補助金説明会	福岡市	柳　　弘範
	6/21	私立大学等経常費補助金説明会	福岡市	松川　　創
	8/29-8/30	日本私立大学協会九州支部 第6回初任者研修会	熊本市	松川　　創
	10/16-10/18	令和元年度大学経理部課長相当者研修会	兵庫県	井上　和史
	11/21	改正民法（債権・契約関係）の要点と法人責務	東京都	柳　　弘範
	11/28-11/29	日本私立歯科大学協会 第14回事務職員研修	東京都	豊福　直子
学務課	6/20	大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会	兵庫県	柴尾　直幸
	8/20-8/21	センター試験連絡協議会	長崎市	江島　定人
	9/2	ビジネスマナー基礎研修	福岡市	浪治　研哉
	9/3	令和元年度北部九州キャンパス防犯ネットワーク福岡・佐賀・筑後地区ブロック連絡会議	太宰府市	淺田　陽子
	10/8	高等教育の修学支援新制度説明会	福岡市	淺田　陽子
	10/9	令和元年度日本学生支援機構奨学金業務研修会	福岡市	松尾　優太
	11/21	改正民法（債権・契約関係）の要点と法人法務に関するセミナー	東京都	松尾　優太
	11/27	大学の教育改革に関する研修（基礎コース）	福岡市	古賀　稔也
	1/23	IR初級研修会	福岡市	松尾　優太
施設課	6/28	第34回九州地区私立大学環境集会	福岡市	多羅　正勝
	8/9	令和元年度特定建築物定期報告制度説明会	福岡市	多羅　正勝
	10/24	電気主任技術者　実務セミナー	福岡市	大神 健太郎

所属	受講日	研　修　等　名	場 所	参加者
情報図書館課	5/28-5/30	学術情報基盤オープンフォーラム	東京都	亀井　　愛
	8/29-8/30	大学情報セキュリティ研究講習会	東京都	廣池　元信
	9/7	日本看護図書館協会 新人研修会	神戸市	外山 瑠璃子
	9/11-9/13	大学等CSIRT研修（応用編）	東京都	亀井　　愛
	10/25	九州地区医学図書館協議会総会	長崎県	亀井　　愛
	11/29	九州地区医学図書館員セミナー	熊本県	亀井　　愛
	3/6	JAIRO Cloud移行説明会	東京都	亀井　　愛
病院事務課	8/20	第59回診療情報管理研究研修会	福岡市	多賀谷 陽子
	8/20	第59回診療情報管理研究研修会	福岡市	井上　美紀
	10/10	2019年度第2回病院機能改善支援セミナー〔総合〕	福岡市	坂本　　静
	10/10	2019年度第2回病院機能改善支援セミナー〔総合〕	福岡市	手塚　直哉
	10/18-10/19	第41回附属病院管理運営事務研修会	神奈川県	福永　重智
	10/18-10/19	第41回附属病院管理運営事務研修会	神奈川県	手塚　直哉
	3/17	令和2年度診療報酬改定説明会	福岡市	坂本　　静
短大事務課	5/20	高等教育の修学支援新制度説明会	東京都	灘吉　祥恵
	6/20	大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会	神戸市	灘吉　祥恵
	6/21	私立大学等経常費補助金説明会	福岡市	灘吉　祥恵
	9/3	令和元年度九州地区私立短期大学協会教職員研修会	福岡市	灘吉　祥恵
	9/3	令和元年度北部九州キャンパス防犯ネットワーク福岡・佐賀・筑後地区ブロック連絡会議	太宰府市	牛之濱ちづる
	10/8	高等教育の修学支援新制度説明会	福岡市	赤坂 竜之介
	10/8	高等教育の修学支援新制度説明会	福岡市	牛之濱ちづる
	10/9	日本学生支援機構奨学金業務研修会	福岡市	牛之濱ちづる
	10/30-11/1	令和元年度私立短期大学教務担当者研修会	滋賀県	赤坂 竜之介
	11/7	学生募集力強化セミナー	東京都	赤坂 竜之介
	2/4	令和元年度日本学生支援機構奨学業務連絡協議会	福岡市	牛之濱ちづる
	2/4	令和元年度日本学生支援機構奨学業務連絡協議会	福岡市	片渕　静香
看護大教務課	5/20	高等教育の修学支援新制度説明会	東京都	箱田　智紀
	5/21	教学部門のための業務改善セミナー	福岡市	大村 さゆり
	6/20	私立大学等経常費補助金説明会	福岡市	大村 さゆり
	10/18	C-Learningセミナー	福岡市	白土 浩太郎
	12/19	大学設置室等に関する事務担当者説明会	東京都	箱田　智紀
	1/13	日本私立看護系大学協会主催セミナー	東京都	白土 浩太郎
看護大学生・入試課	6/18	2019年度大学入試結果説明会	福岡市	楢崎　進也
	6/20	大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会	神戸市	楢崎　進也
	7/1	令和2年度大学入試センター試験入試 福岡県地区連絡会議	福岡市	楢崎　進也
	8/21	令和2年度大学入試センター試験入試担当者連絡協議会（第1回）	長崎市	楢崎　進也
	8/21	令和2年度大学入試センター試験入試担当者連絡協議会（第1回）	長崎市	福吉　真季
	9/3	令和元年度北部九州キャンパス防犯ネットワーク福岡・佐賀・筑後地区ブロック連絡会議	太宰府市	鬼束　泰裕
	9/17	私立大学職員の新人研修	福岡市	德安 由香利
	10/8	高等教育の修学支援新制度説明会	福岡市	楢崎　進也
	10/8	高等教育の修学支援新制度説明会	福岡市	鬼束　泰裕
	10/9	令和元年度日本学生支援機構奨学金業務研修会	福岡市	鬼束　泰裕
	11/8	子ども病院説明会・施設見学	福岡市	德安 由香利
	12/10	令和2年度大学入試センター試験入試担当者連絡協議会（第2回）	福岡市	楢崎　進也
	12/10	令和2年度大学入試センター試験入試担当者連絡協議会（第2回）	福岡市	福吉　真季

別表９　令和元年度 学内研修一覧

○階層別研修

研修名		対象者	研修内容	実施日時	受講者数
1	採用時研修	新規採用事務職員等	施設見学・大学教職員の基礎知識等	4月3日～11日	5名
			他課研修	8月1日～9月30日 のうち2日間	5名
			フォローアップ研修① 「困っていること・難しいと感じていること」等	11月13日（木） 13:00-14:30	6名
			フォローアップ研修② 「来年度に向けた目標の設定」等	2月26日（水） 15:00-17:00	6名
2	若手・中堅職員研修	係長・主任・ 事務職員・嘱託職員	本学の取組と（地域）貢献について	10月24日（木） 13:00-14:00	55名

○専門研修

研修名		対象者	研修内容	実施日時	受講者数
1	ＳＤ	若手教員等 (助教・助手・医員等)	ハラスメント講演会 「キャンパス・ハラスメントの防止 －学生指導で起こりやすい事例を中心に－」	6月26日(水) 17:30-18:30	77名
2	ＳＤ	教職員	IRとは何か？その活用法と歯科大学におけるIR活動	8月27日(火) 14:00-14:50	87名
3	ＳＤ	教職員	歯科大学における内部質保証について	11月21日(木) 18:00-19:00	65名
4	ＳＤ	管理職	ハラスメント講演会 「アサーティブネスで、ハラスメントを しない受けない対人関係の構築」	12月10日(火) 18:00-19:00	63名
5	考課者研修	事務局長・課長・ 課長補佐	「人事考課のための考課者研修」	12月8日(水) 16:00-17:10	15名
6	ＳＤ	事務職員等	福岡歯科大学における授業見学	12月随時	16名

別表１０　令和元年度 西部地区五大学連携懇話会研修参加者

受講日	研　　修　　名	主　催	場所	参加者
5/31	ファシリテーション研修	九州大学	九大伊都地区	藤田　淑乃 堀　　美穂
9/2	ビジネスマナー基礎研修	中村学園大学	福岡市	浪治　研哉

別表１１　令和元年度 福岡未来創造ﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑ参画大学共同SD研修

受講日	研　　修　　名	主　催	場所	参加者
11/27	大学の教育改革に関する研修（基礎コース）	福岡大学	福岡市	古賀　稔也